

在宅介護実態調査報告書

～第8期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和2年3月

<新宿区>

目次

1 調査概要	[P. 1]
(1) 調査の目的	[P. 1]
(2) 調査方法	[P. 1]
(3) 調査対象	[P. 1]
(4) 調査期間	[P. 1]
(5) 回収状況	[P. 1]
(6) 報告書を利用するにあたって	[P. 1]
2 調査結果の詳細（単純集計結果）	[P. 4]
(1) 要介護認定データ	[P. 4]
① 年齢	[P. 4]
② 性別	[P. 4]
③ 二次判定結果（要介護度）	[P. 5]
④ サービス利用の組み合わせ	[P. 5]
⑤ 訪問系サービスの合計利用回数	[P. 6]
⑥ 通所系サービスの合計利用回数	[P. 6]
⑦ 短期系サービスの合計利用回数	[P. 7]
⑧ 障害高齢者の日常生活自立度	[P. 7]
⑨ 認知症高齢者の日常生活自立度	[P. 8]
(2) 基本調査項目（A 票）	[P. 9]
① 世帯類型	[P. 9]
② 家族等による介護の頻度	[P. 9]
③ 主な介護者の本人との関係	[P. 10]
④ 介護のための離職の有無	[P. 10]
⑤ 施設等検討の状況	[P. 11]
(3) 主な介護者に関する調査項目（B 票）	[P. 12]
① 主な介護者の勤務形態	[P. 12]
② 主な介護者の働き方の調整状況	[P. 12]
③ 主な介護者の就労継続の可否に係る意識	[P. 13]
④ 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	[P. 13]

3 調査結果の詳細（クロス集計結果）	[P. 14]
(1) サービス利用状況等と介護者が不安に感じる介護	[P. 14]
① 基本集計	[P. 14]
② 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化	[P. 15]
③ 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化	[P. 17]
④ 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係	[P. 18]
⑤ 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	[P. 19]
⑥ 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係	[P. 21]
⑦ 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	[P. 24]
(2) 主な介護者の就労状況と就労継続見込み	[P. 30]
① 基本集計	[P. 30]
② 就労状況別の就労継続見込み	[P. 32]
③ 「就労継続見込み」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	[P. 34]
④ 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係	[P. 35]
⑤ 就労状況別の施設等検討の状況	[P. 37]
⑥ 就労状況別の介護のための働き方の調整	[P. 38]
(3) 世帯類型別のサービス利用や施設等の検討状況	[P. 40]
① 基本集計	[P. 40]
② 「世帯類型別・要介護度別」の「家族等による介護の頻度」	[P. 41]
③ 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」	[P. 43]
④ 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」	[P. 45]
【参考資料】在宅介護実態調査 調査票	[P. 48]

1 調査概要

(1) 調査の目的

新宿区高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画（令和3年度～5年度）策定にあたり実施する「新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査」を補完するため、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討するための基礎資料を得ることを目的とし、以下の調査を実施した。

調査種別	調査の目的
A票	対象者の世帯類型、介護の頻度、介護のための離職の有無、施設等への入所・入居の検討状況等を把握する。
B票	主な介護者の勤務形態、働き方の調整の状況、就労継続の可否に係る意識、在宅生活の継続に向けて不安に感じる介護を把握する。

調査項目は『在宅介護実態調査』として国が示した内容に基づき設定した。

(2) 調査方法

介護保険認定調査実施時に、介護保険認定調査員が、調査対象者や調査に立ち会っている家族などに、聞き取り調査を行った。

(3) 調査対象

区内で在宅生活をしている、要介護・要支援認定の区分変更及び更新申請に伴う認定調査対象者とその家族で、「在宅介護実態調査」へのご協力の了解を得られた方。

(4) 調査期間

平成31年1月10日～令和元年12月25日

(5) 回収状況

対象者数	183	有効回答数（回収率）	183（100%）
------	-----	------------	-----------

(6) 報告書を利用するにあたって

- 図・表中のnとは、基数となる実数のことである。
- 回答はnを100%として百分率で算出している。少数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがある。
- 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が100%を超える。
- 報告書作成にあたり「厚生労働省老健局介護保険計画課 在宅介護実態調査自動集計分析ソフト 2010版」を用いてデータ集計・分析を行った。
- 本文中の「サービスの利用回数」は、認定調査を行った月のサービスの利用回数である。
- サービスの利用回数・組み合わせ等に着目した集計・分析に係る用語の定義は以下のとおりである。

<サービス利用の分析に用いた用語の定義>

用語		定義
未利用		・「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、「未利用」として集計している。
訪問系		・(介護予防)訪問介護、(介護予防)訪問入浴介護、(介護予防)訪問看護、(介護予防)訪問リハビリテーション、(介護予防)居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計している。
通所系		・(介護予防)通所介護、(介護予防)通所リハビリテーション、(介護予防)認知症対応型通所介護を「通所系」として集計している。
短期系		・(介護予防)短期入所生活介護、(介護予防)短期入所療養介護を「短期系」として集計している。
その他	小規模多機能	・(介護予防)小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計している。
	看護多機能	・看護小規模多機能型居宅介護を「看護多機能」として集計している。
	定期巡回	・定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計している。

<サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義>

用語		定義
未利用		・上表に同じ
訪問系のみ		・上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計している。
訪問系を含む組み合わせ		・上表の「訪問系(もしくは定期巡回)」+「通所系」、「訪問系(もしくは定期巡回)」+「短期系」、「訪問系(もしくは定期巡回)」+「通所系」+「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計している。
通所系・短期系のみ		・上表の「通所系」、「短期系」、「通所系」+「短期系」の利用を集計している。

<障害高齢者の日常生活自立度>

用語	説明	
J	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。	
	J 1	交通機関等を利用して外出する。
	J 2	隣近所へなら外出する。
A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。	
	A 1	介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。
	A 2	外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。
B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ。	
	B 1	車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。
	B 2	介助により車いすに移乗する。
C	1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。	
	C 1	自力で寝返りをうつ。
	C 2	自力では寝返りもうたない。

<認知症高齢者の日常生活自立度>

用語	説明	
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
	II a	家庭外で上記IIの状態が見られる。
	II b	家庭内でも上記IIの状態が見られる。
III	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。	
	III a	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。
	III b	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる。
IV	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	
M	著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	

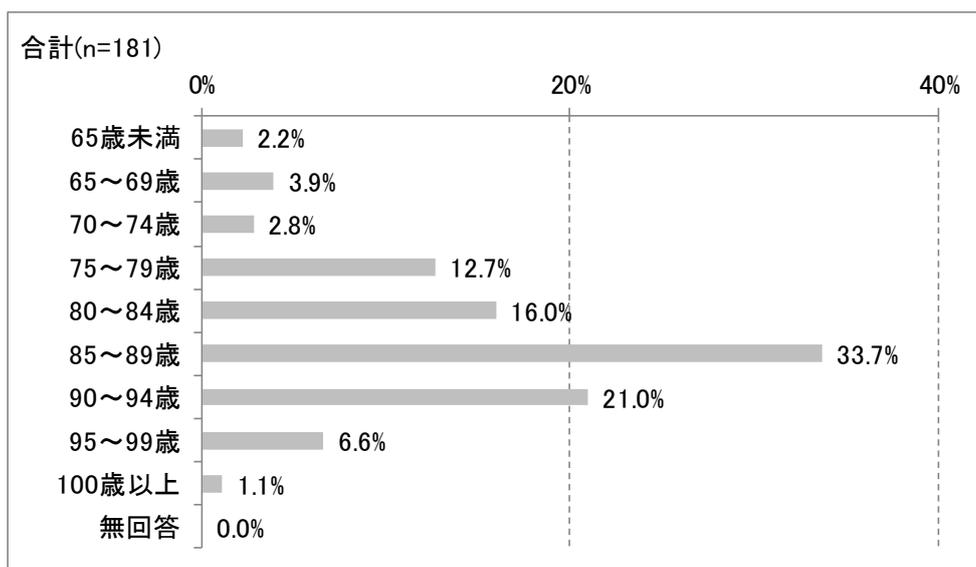
2 調査結果の詳細（単純集計結果）

（1）要介護認定データ

① 年齢

○調査対象者は、75歳以上の後期高齢者が91.1%、一方「65歳未満」は2.2%であった。

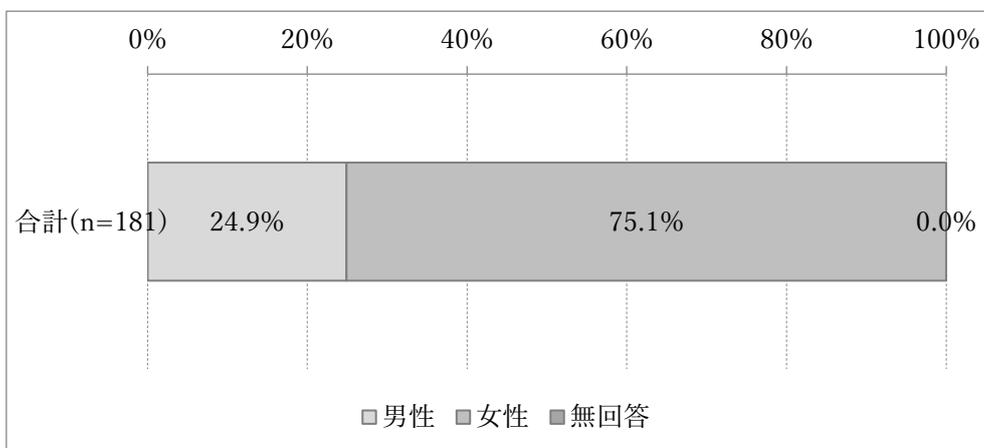
■年齢



② 性別

○「男性」24.9%、「女性」75.1%であった。

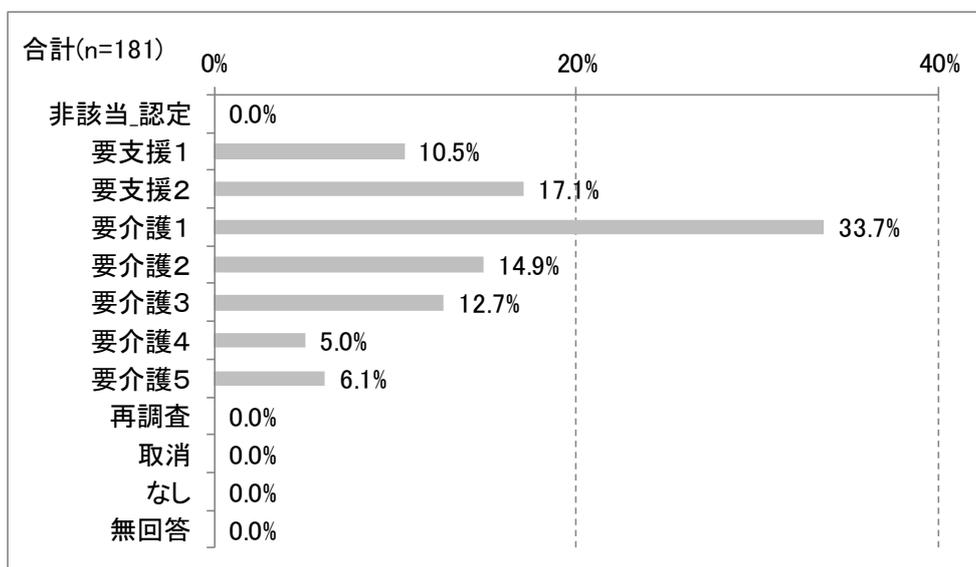
■性別



③ 二次判定結果（要介護度）

○「要介護1」が33.7%、「要支援2」が17.1%であった。「要支援1」と「要支援2」は合わせて27.6%、要介護3以上は23.8%であった。

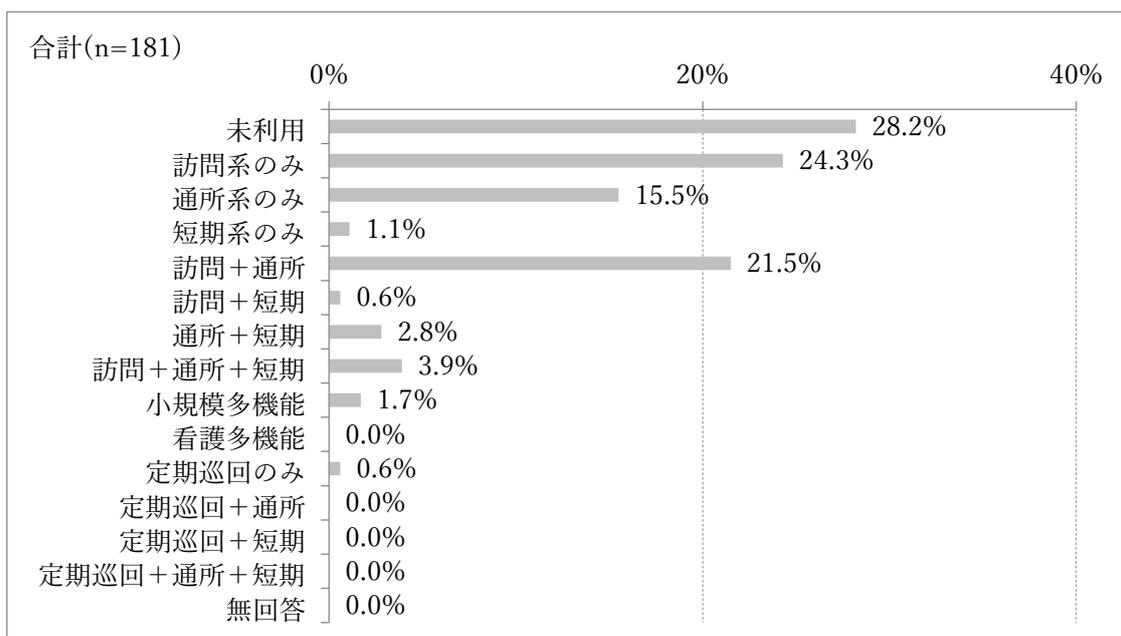
■二次判定結果（要介護度）



④ サービス利用の組み合わせ

○「未利用」が28.2%と最も高く、「訪問系のみ」利用が24.3%、「訪問+通所」が21.5%、「通所系のみ」が15.5%と続いた。

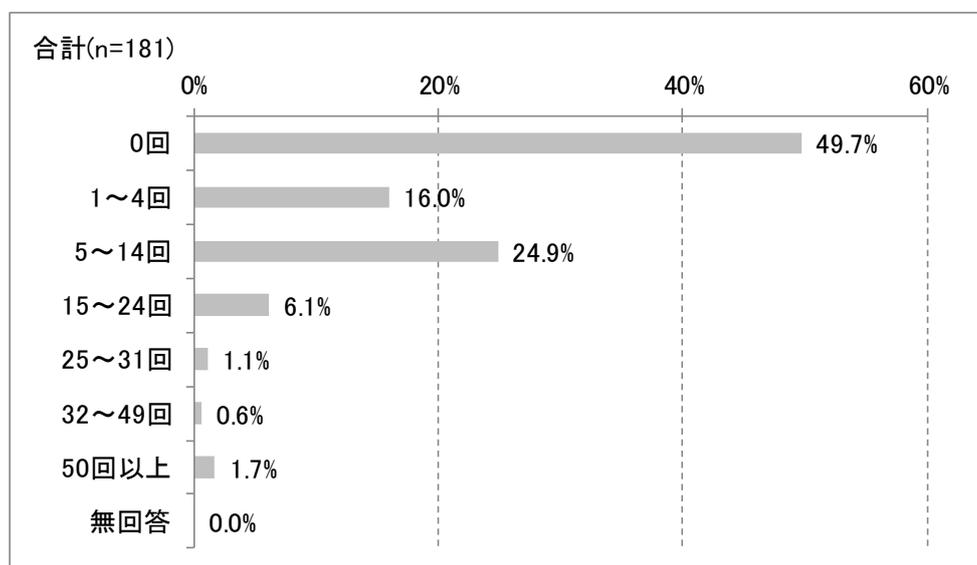
■サービス利用の組み合わせ



⑤ 訪問系サービスの合計利用回数

○「0回」が49.7%と約半数を占め、「5～14回」が24.9%、「1～4回」が16.0%と続いた。一方「50回以上」利用も1.7%あった。

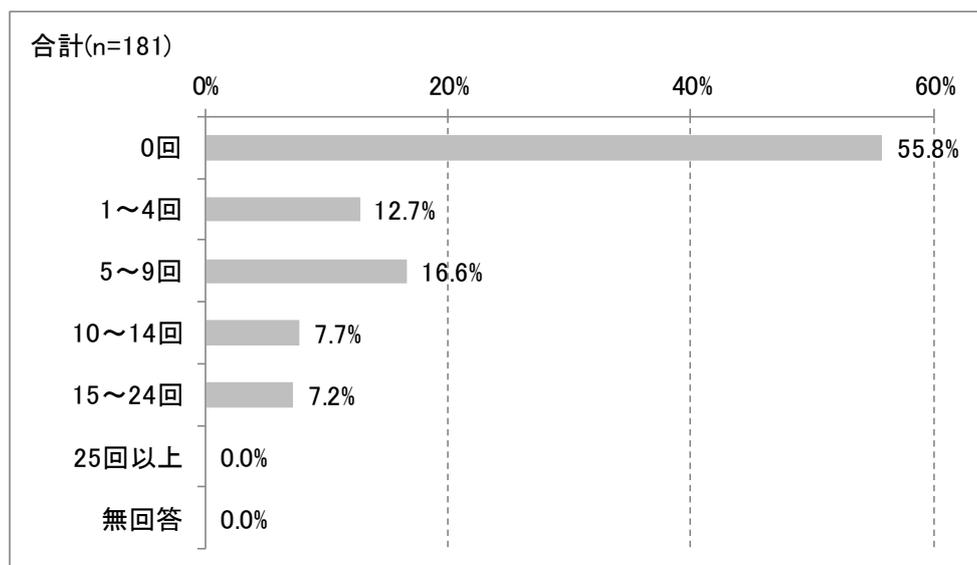
■サービスの利用回数（訪問系）



⑥ 通所系サービスの合計利用回数

○「0回」が55.8%と最も高く半数以上を占めた。次いで「5～9回」が16.6%、「1～4回」が12.7%と続いた。また、10回以上利用している割合は約1割半ばであった。

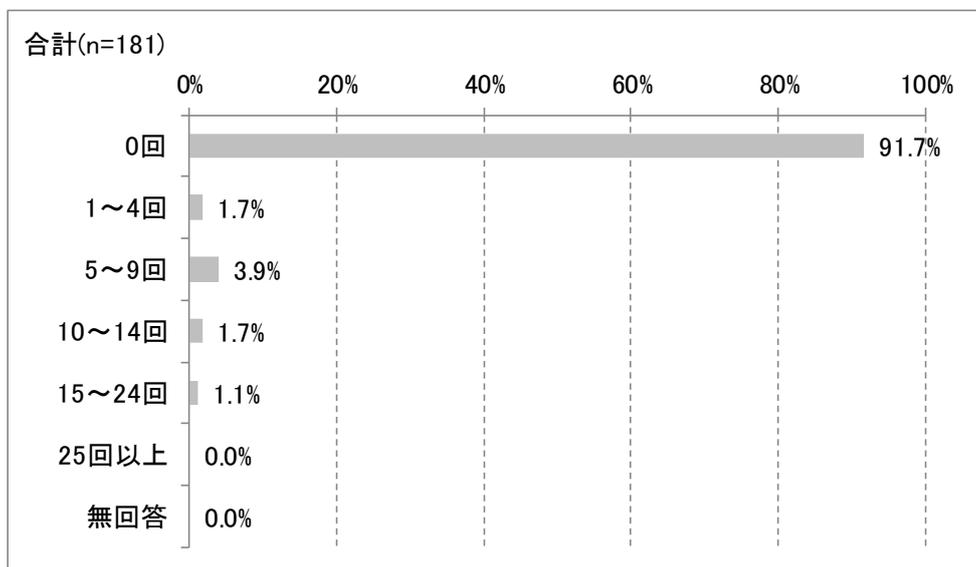
■サービスの利用回数（通所系）



⑦ 短期系サービスの合計利用回数

○「0回」が91.7%と9割を超えた。

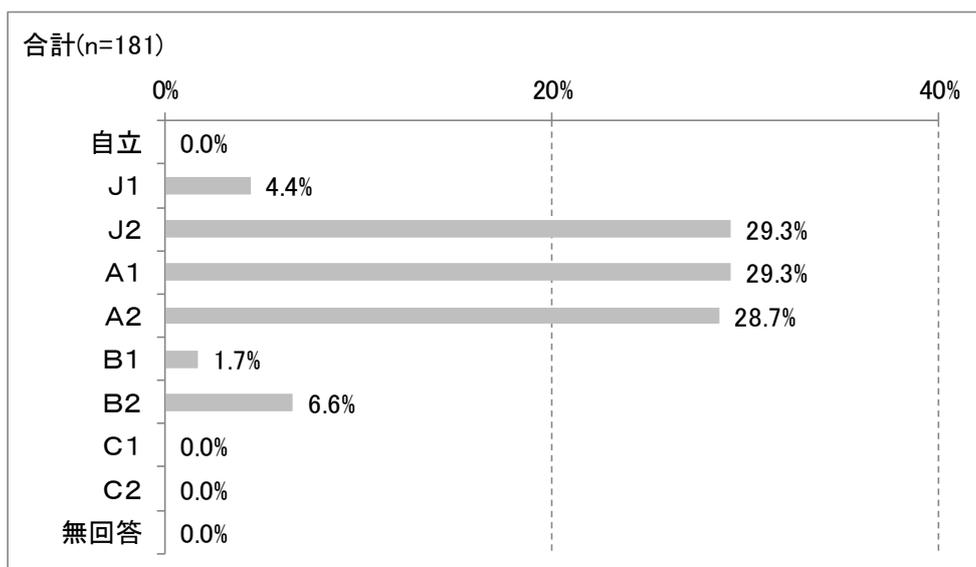
■サービスの利用回数（短期系）



⑧ 障害高齢者の日常生活自立度

○「J2」、「A1」が29.3%、「A2」が28.7%であった。BおよびCランクの合計は8.3%であった。

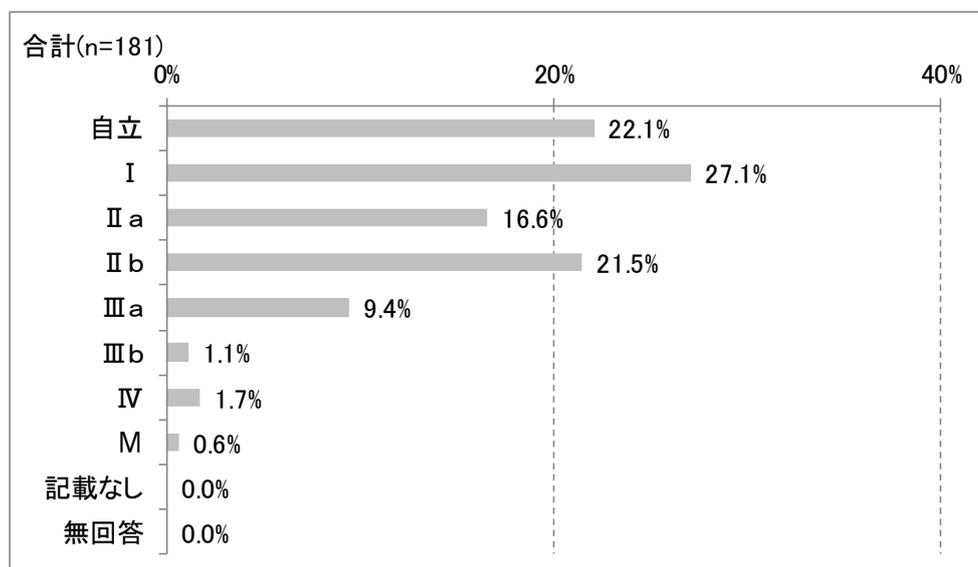
■障害高齢者の日常生活自立度



⑨ 認知症高齢者の日常生活自立度

○「I」が27.1%と最も高く、「自立」が22.1%、「II b」が21.5%と続いた。また、認知症III以上は、12.8%であった。

■ 認知症高齢者の日常生活自立度

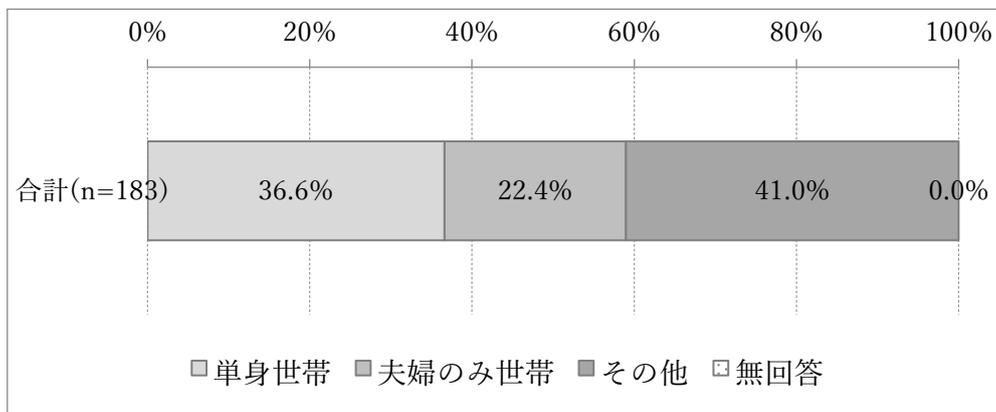


(2) 基本調査項目 (A票)

① 世帯類型

「単身世帯」 36.6%、「夫婦のみ世帯」 22.4%、「その他」 41.0%であった。

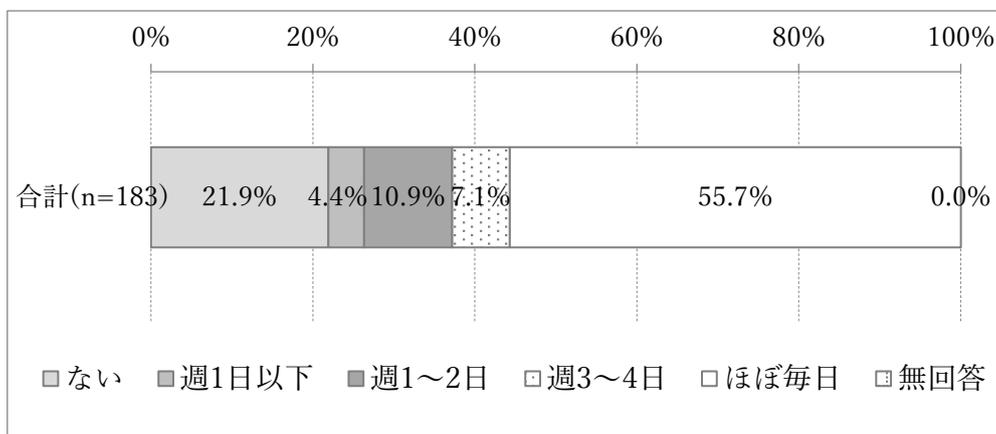
■世帯類型 (単数回答)



② 家族等による介護の頻度

○「ほぼ毎日」が最も高く 55.7%、次いで「週1～2日」が 10.9%であった。一方、「ない」と回答した割合は 21.9%であった。

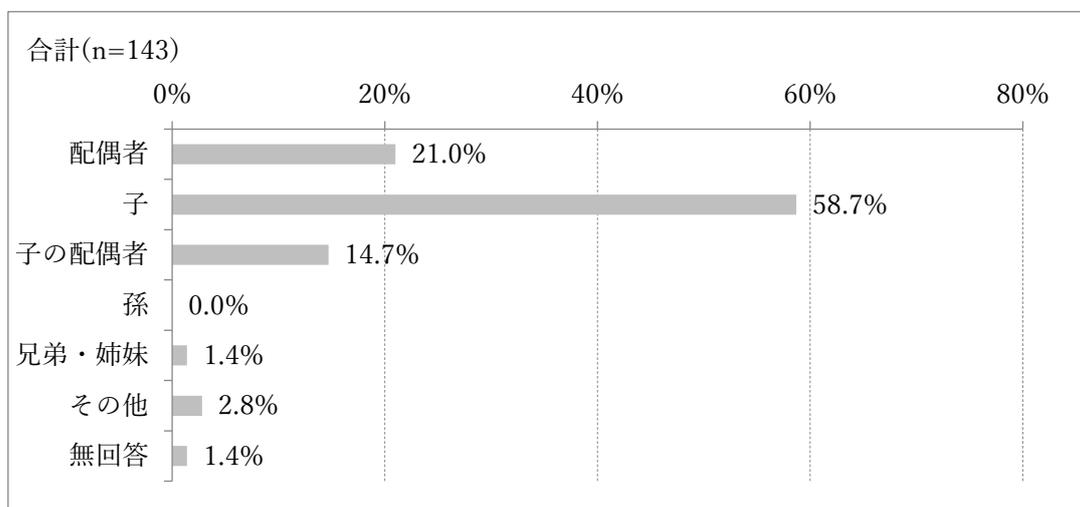
■家族等による介護の頻度 (単数回答)



③ 主な介護者の本人との関係

○「子」が最も高く 58.7%、次いで「配偶者」21.0%、「子の配偶者」14.7%であった。

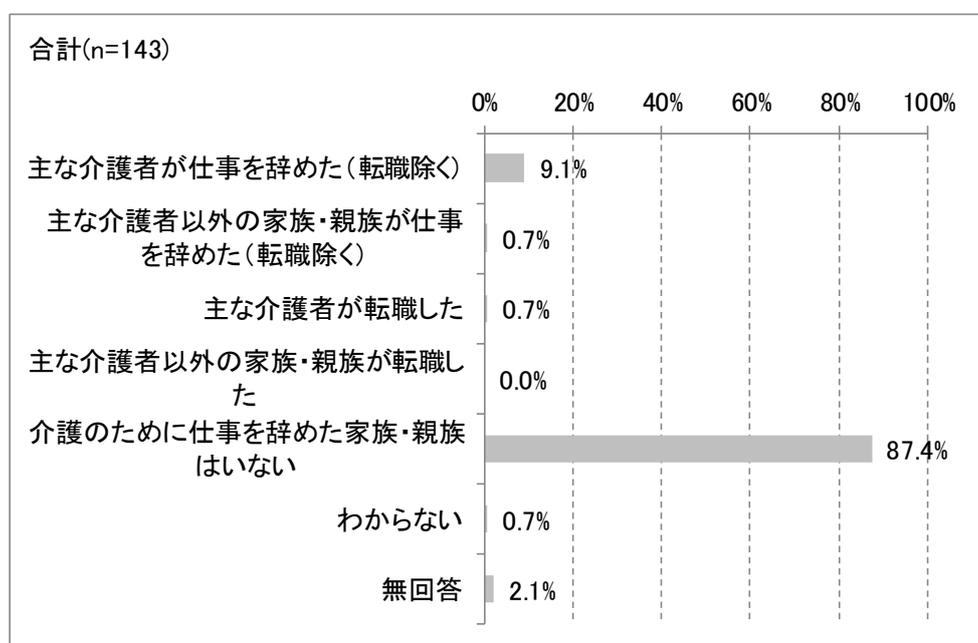
■主な介護者の本人との関係（単数回答）



④ 介護のための離職の有無

○「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 87.4%と最も高かった。一方、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」割合は 9.1%であった。

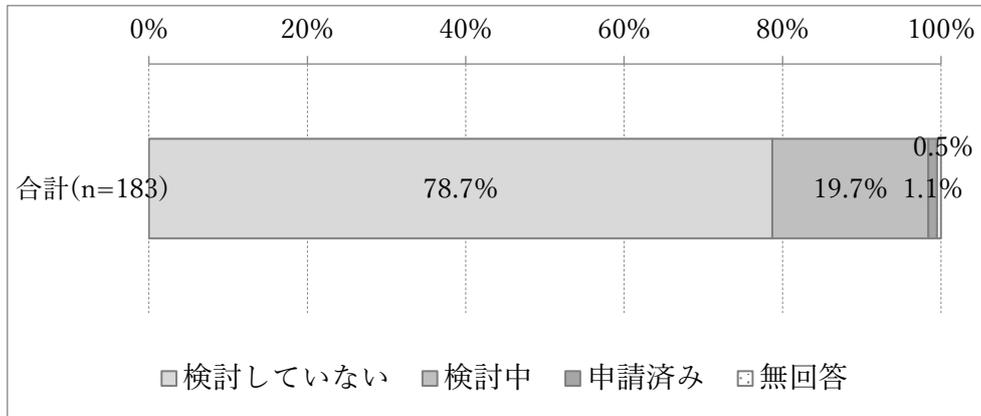
■介護のための離職の有無（複数回答）



⑤ 施設等検討の状況

○「検討していない」が最も高く78.7%であった。一方、「検討中」と「申請済み」を合わせると2割強であった。

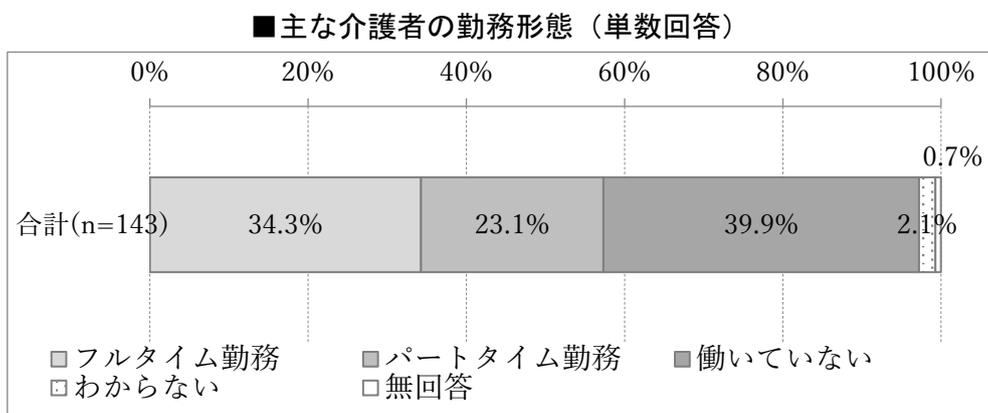
■施設等検討の状況（単数回答）



(3) 主な介護者に関する調査項目 (B票)

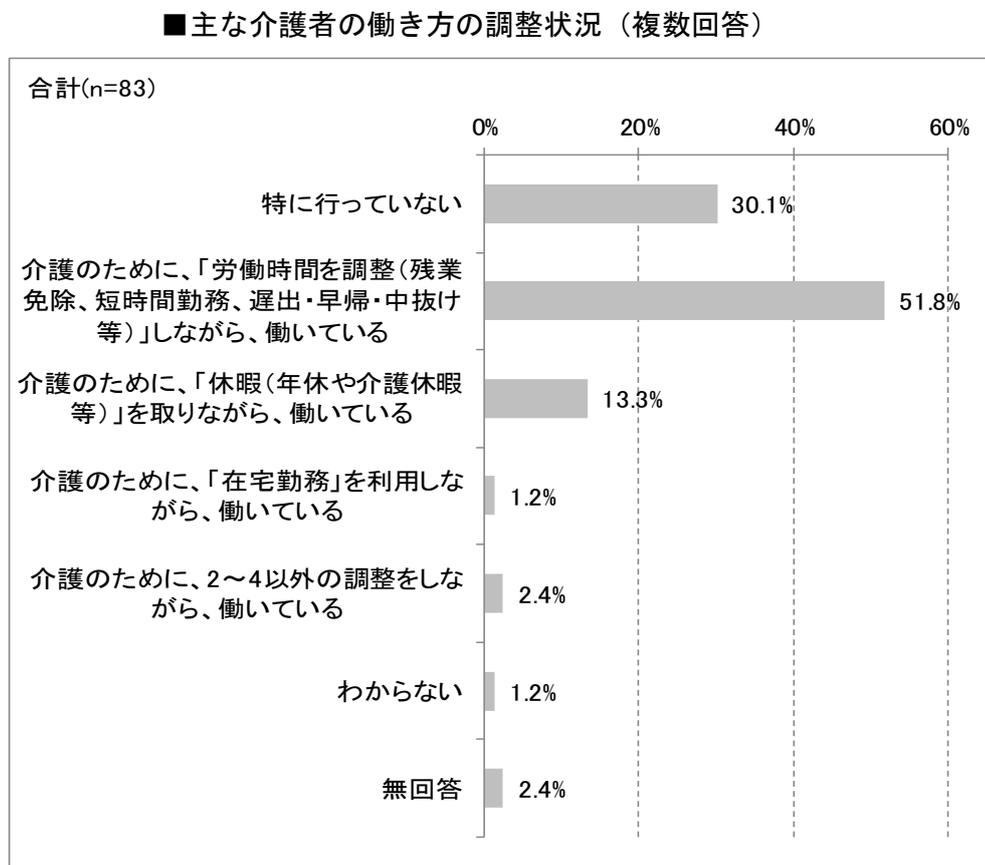
① 主な介護者の勤務形態

○全体の半数以上は働いており、「フルタイム勤務」は34.3%、「パートタイム勤務」は23.1%であった。



② 主な介護者の働き方の調整状況

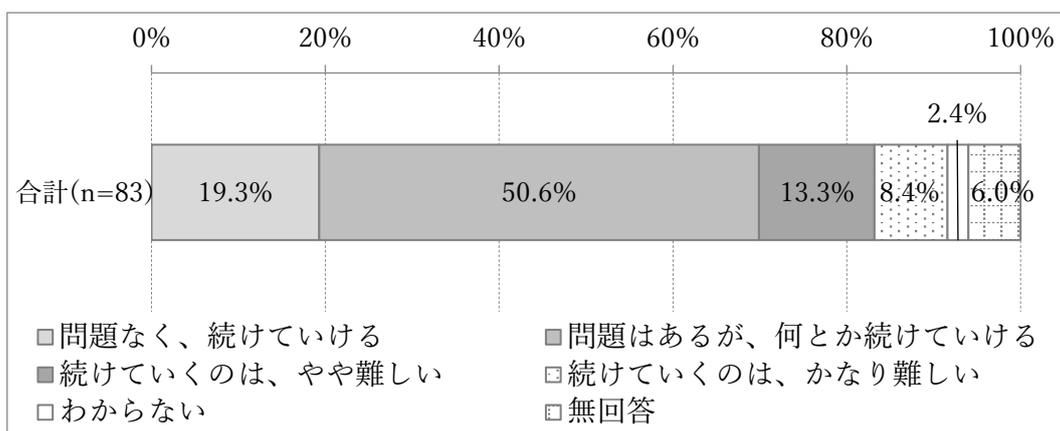
○「介護のために、『労働時間を調整 (残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)』しながら、働いている」割合が51.8%と最も高かったが、「特に行っていない」と回答した割合も30.1%あった。



③ 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

- 「問題はあるが、何とか続けていける」が50.6%で最も高かった。
- 「問題なく、続けていける」は19.3%だった。一方、「問題はあるが、何とか続けていける」「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」の合計は72.3%で、主な介護者が働く上で何らかの問題を感じているのは7割を超えた。

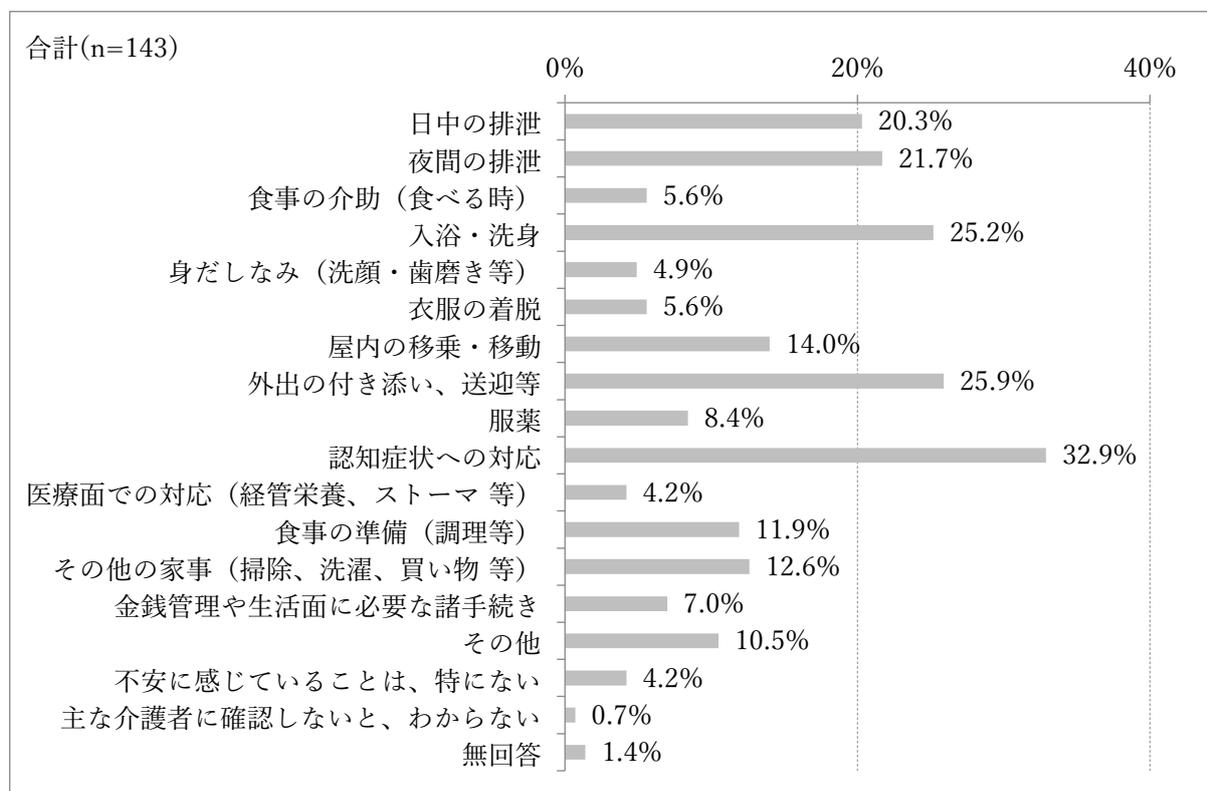
■ 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）



④ 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

- 「認知症状への対応」が32.9%と最も高く、「外出の付き添い、送迎等」が25.9%、「入浴・洗身」が25.2%と続いた。

■ 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）



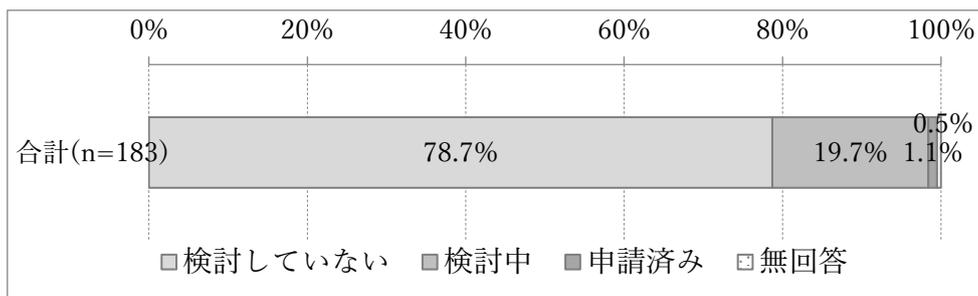
3 調査結果の詳細（クロス集計結果）

(1) サービス利用状況等と介護者が不安に感じる介護

① 基本集計

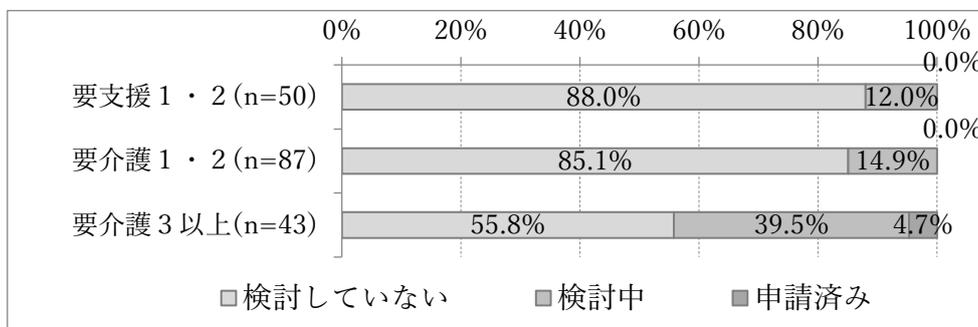
○施設等検討の状況は、「検討していない」が78.7%であった。一方、「検討中」または「申請済み」は合わせて20.8%であった。

■施設等検討の状況



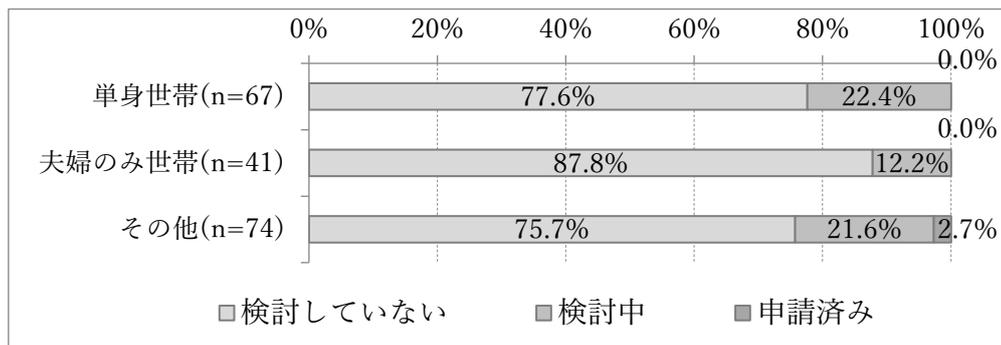
○要介護度別・施設等検討の状況で施設等の入所を「検討中」または「申請済み」は、『要支援1・2』で12.0%、『要介護1・2』は14.9%、『要介護3以上』は44.2%であり、重度化に伴い検討中や申請済みの割合が高くなっていった。一方、『要介護3以上』においても「検討していない」が55.8%と半数を超えた。

■要介護度別・施設等検討の状況



○世帯類型別・施設等検討の状況で施設等の入所を「検討中」または「申請済み」は、『単身世帯』で22.4%、『夫婦のみ世帯』で12.2%であった。

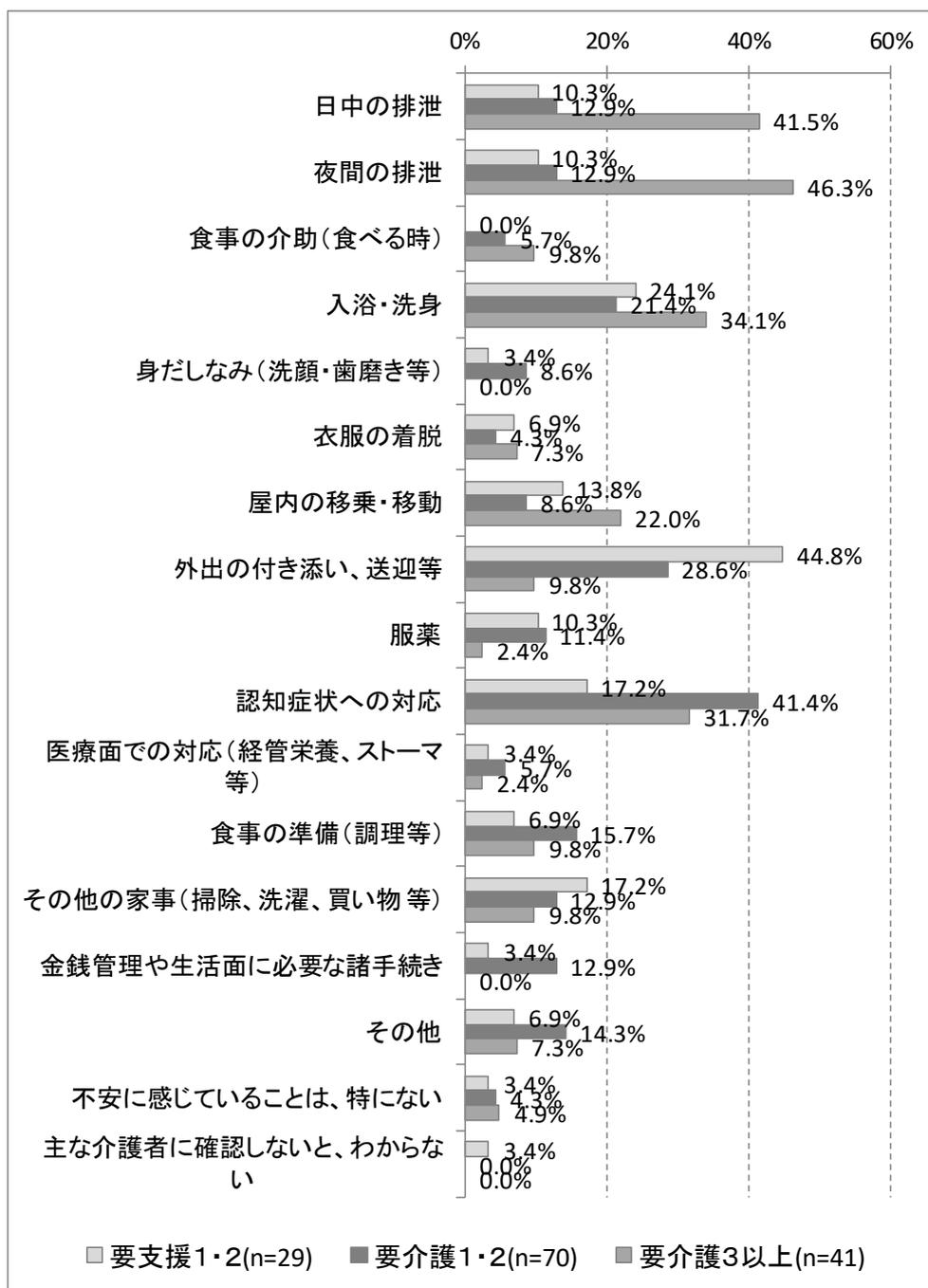
■世帯類型別・施設等検討の状況



② 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化

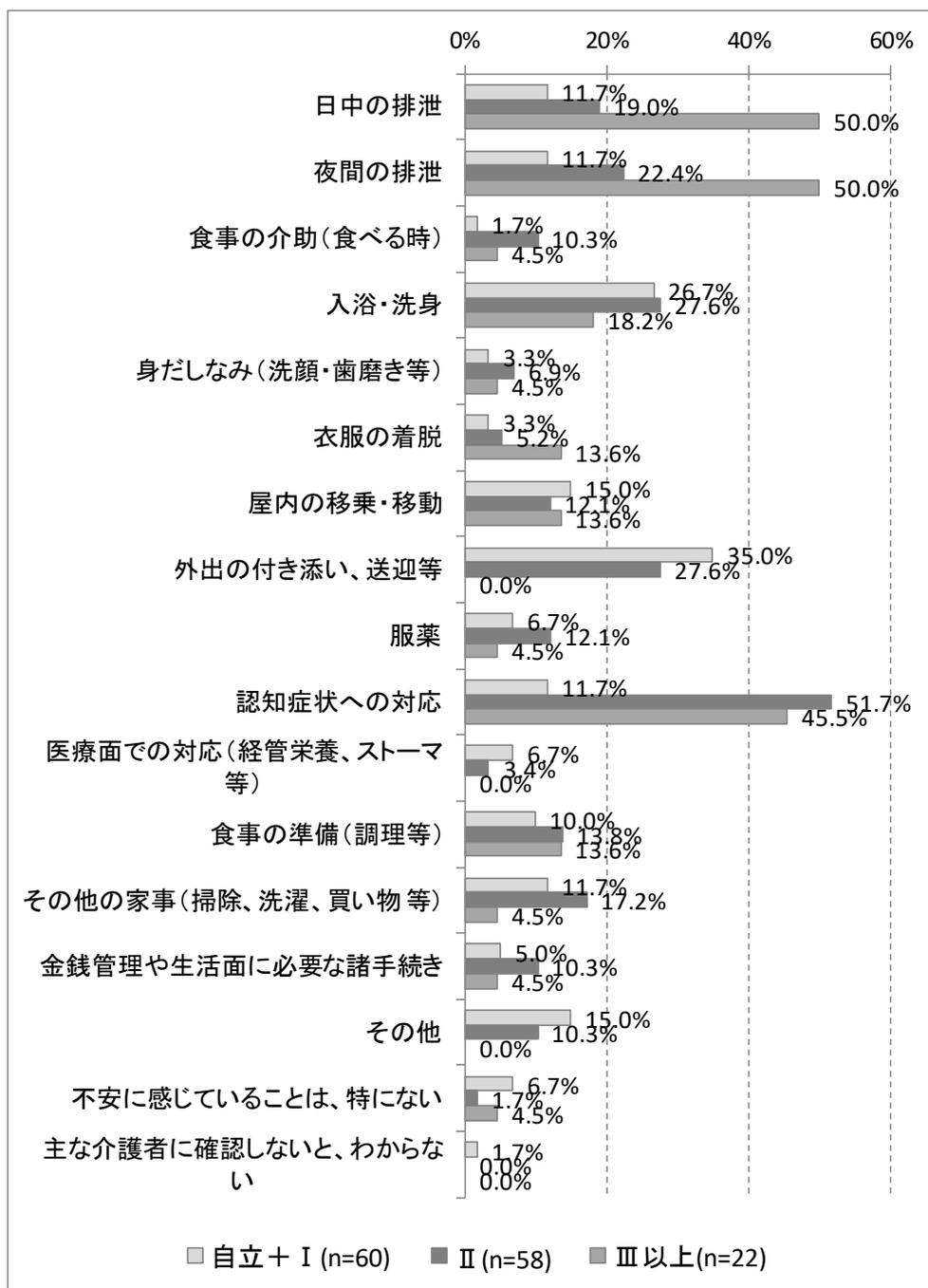
○『要支援1・2』では「外出の付き添い、送迎等」が44.8%、『要介護1・2』では「認知症状への対応」が41.4%、『要介護3以上』では「夜間の排泄」が46.3%と最も高かった。また、『要介護3以上』では、「日中の排泄」が41.5%、「入浴・洗身」が34.1%と続いた。

■要介護度別・介護者が不安に感じる介護



○認知症自立度『Ⅱ』では「認知症状への対応」が最も高く51.7%、『Ⅲ以上』では「日中の排泄」、「夜間の排泄」が最も高くそれぞれ50.0%であった。『Ⅲ以上』では「認知症状への対応」が45.5%と続いた。

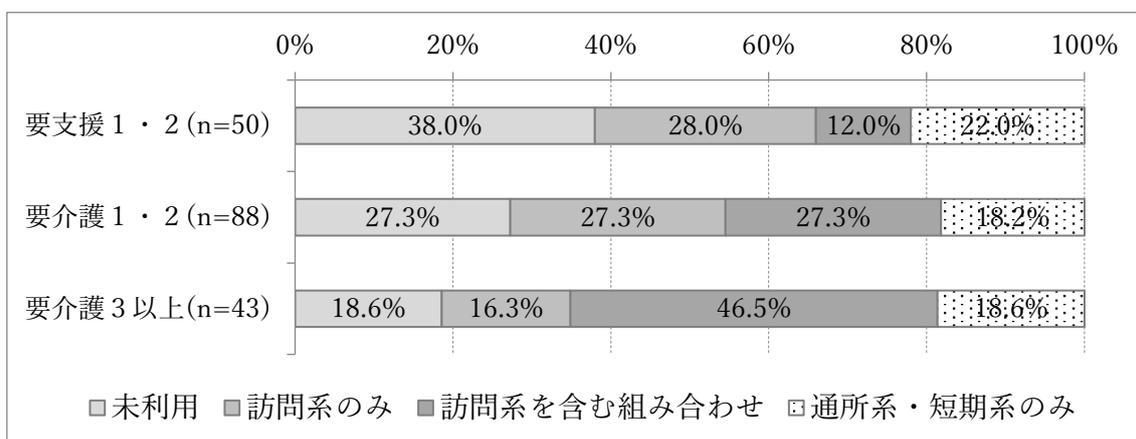
■認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護



③ 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

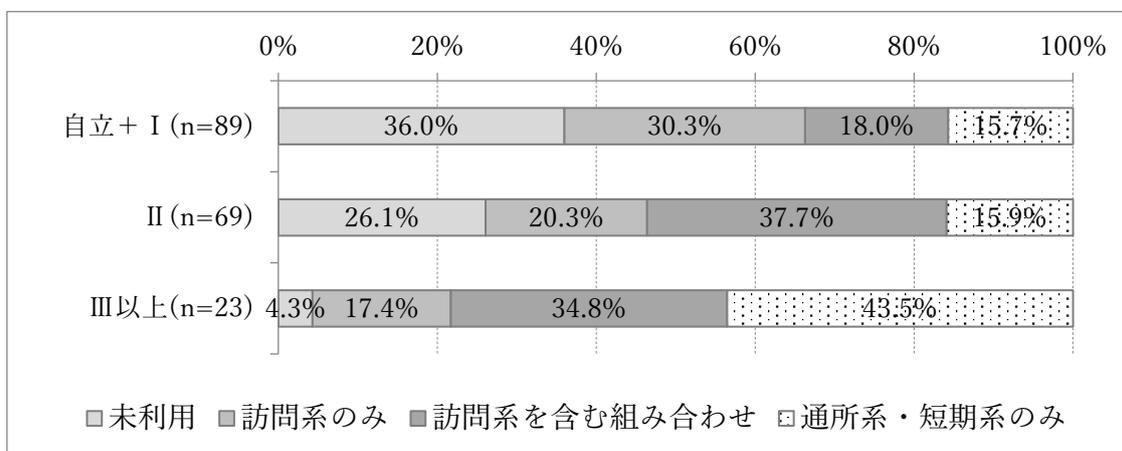
○要介護度の重度化に伴い、「未利用」の割合が減少し、「訪問系のみ」「訪問系を含む組み合わせ」の利用割合が増していた。特に「訪問系を含む組み合わせ」の増加が顕著であった。

■要介護度別・サービス利用の組み合わせ



○認知症自立度の重度化に伴い、「未利用」および「訪問系のみ」の割合が減少し、「通所系・短期系のみ」の割合が増していた。

■認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ

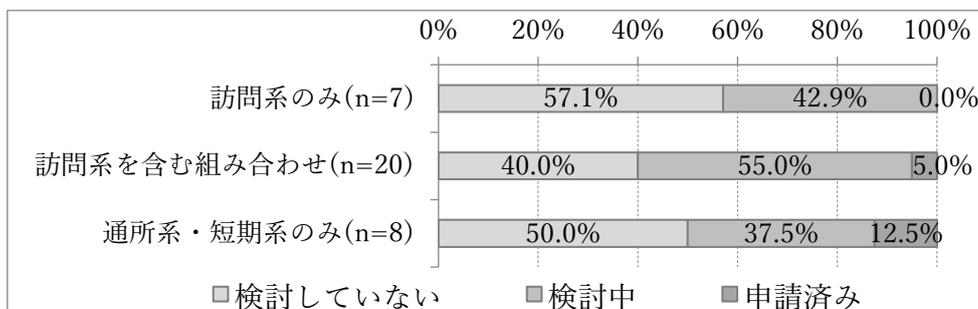


④ 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

【要介護3以上】

○施設等の入所を「検討していない」割合は、『訪問系のみ』のサービス利用者で最も高く 57.1%、『訪問系を含む組み合わせ』で 40.0%、『通所系・短期系のみ』で 50.0%となっていた。

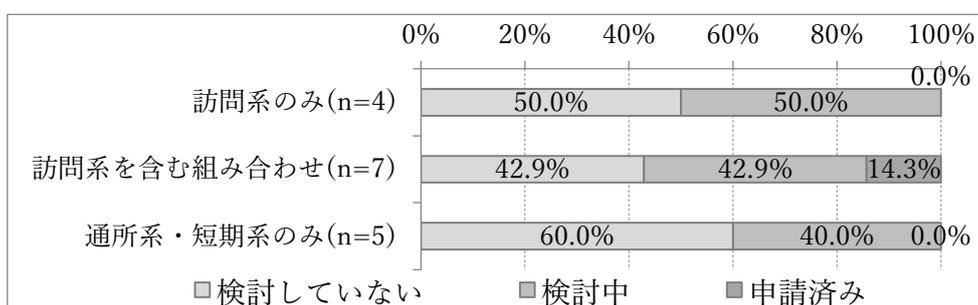
■サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



【要介護4以上】

○施設等の入所を「検討していない」割合は、『通所系・短期系のみ』のサービス利用者で最も高く 60.0%、『訪問系のみ』で 50.0%、『訪問系を含む組み合わせ』で 42.9%となっていた。

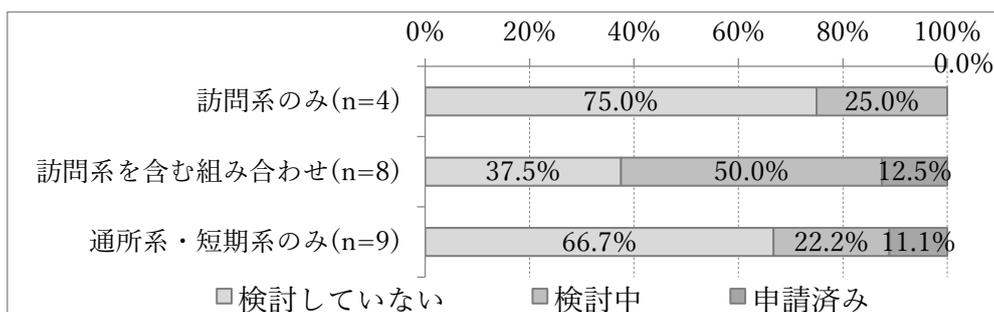
■サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



【認知症Ⅲ以上】

○施設等の入所を「検討中」および「申請済み」の割合は、『訪問系を含む組み合わせ』のサービス利用者で最も高く 62.5%、『通所系・短期系のみ』で 33.3%、『訪問系のみ』で 25.0%となっている。一方「検討していない」の割合は『訪問系のみ』で最も高く 75.0%であった。

■サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）

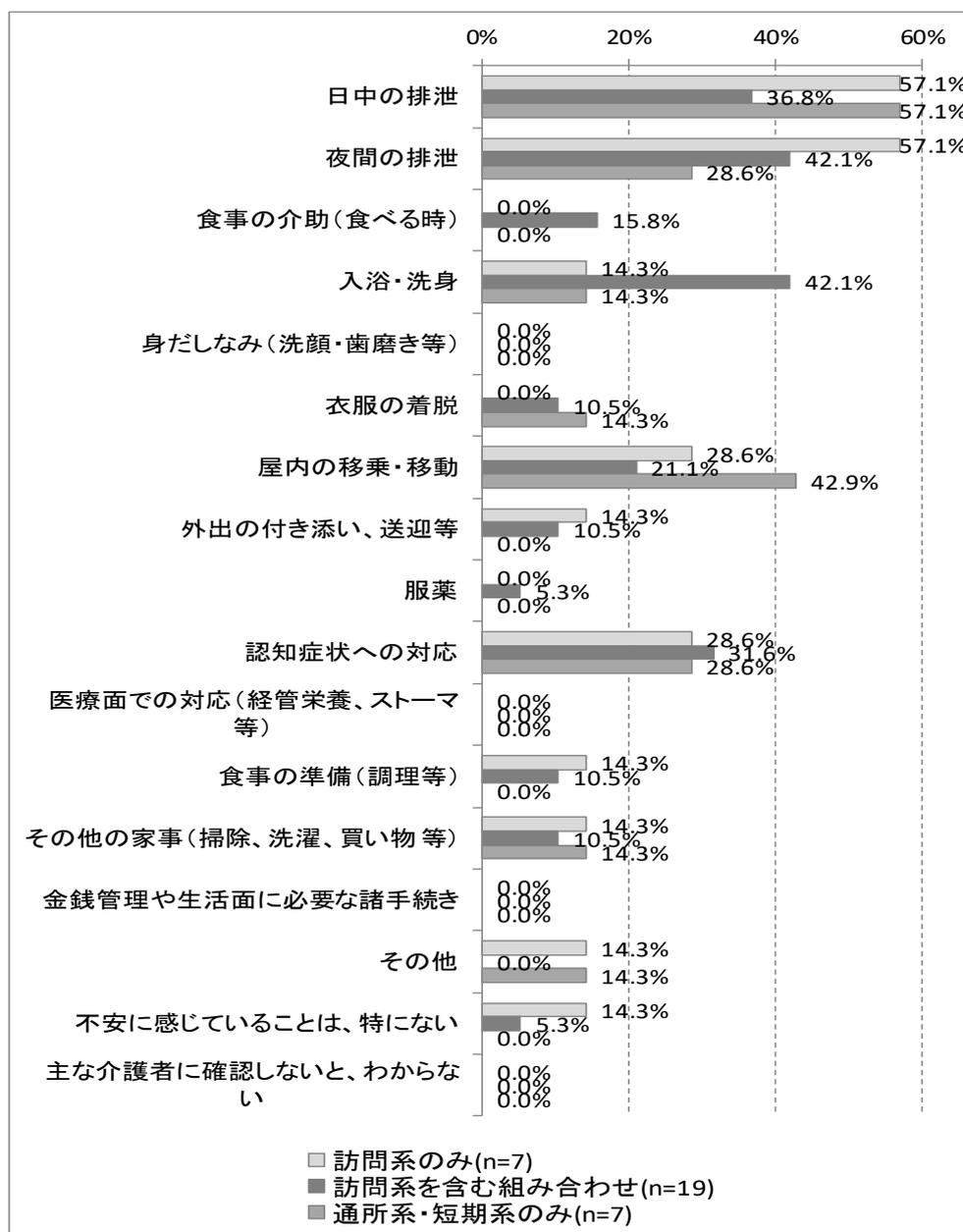


⑤ 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

【要介護3以上】

- 『訪問系のみ』のサービス利用では、「日中の排泄」および「夜間の排泄」が57.1%と最も高く、「屋内の移乗・移動」および「認知症状への対応」が28.6%と続いた。
- 『訪問系を含む組み合わせ』のサービス利用では、「夜間の排泄」および「入浴・洗身」が42.1%と最も高く、「日中の排泄」が36.8%と続いた。
- 『通所系・短期系のみ』のサービス利用では、「日中の排泄」が57.1%と最も高く、「屋内の移乗・移動」が42.9%、「夜間の排泄」および「認知症状への対応」が28.6%と続いた。

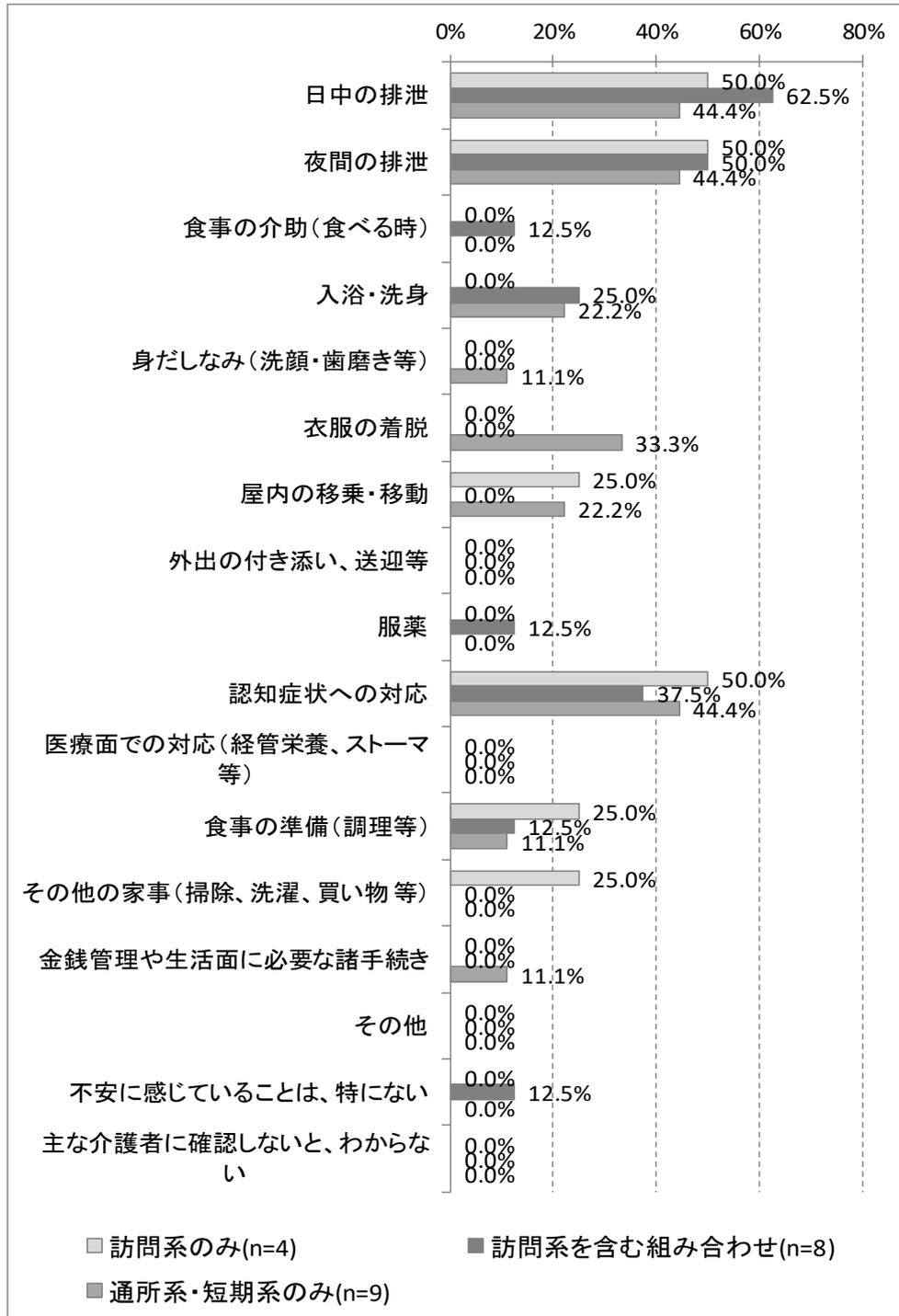
■サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安に感じる介護（要介護3以上）



【認知症Ⅲ以上】

- 『訪問系のみ』のサービス利用では、「日中の排泄」、「夜間の排泄」および「認知症状への対応」が50.0%と最も高かった。
- 『訪問系を含む組み合わせ』のサービス利用では、「日中の排泄」が62.5%と最も高く、「夜間の排泄」が50.0%と続いた。
- 『通所系・短期系のみ』のサービス利用では、「日中の排泄」、「夜間の排泄」および「認知症状への対応」が44.4%と最も高かった。

■サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安に感じる介護（認知症Ⅲ以上）

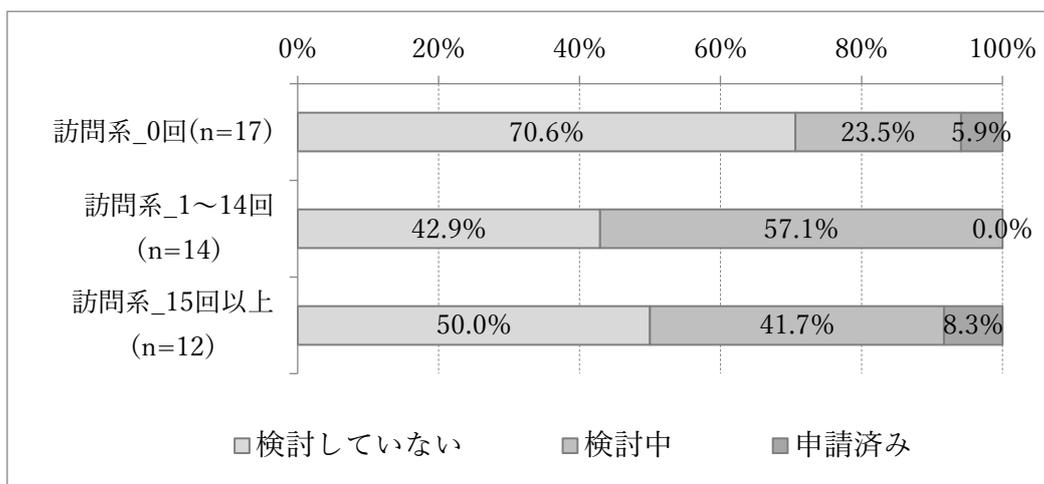


⑥ 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

【訪問系、要介護3以上】

- 『0回』では、施設等の入所を「検討していない」が70.6%、「検討中」が23.5%であった。
- 『1～14回』では、施設等の入所を「検討していない」が42.9%、「検討中」が57.1%であった。
- 『15回以上』では、施設等の入所を「検討していない」が50.0%、「検討中」が41.7%であった。

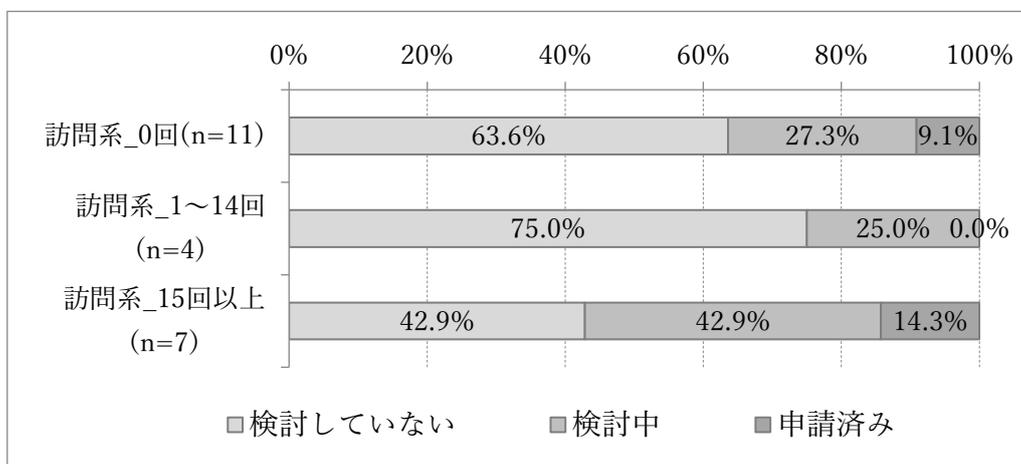
■サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）



【訪問系、認知症Ⅲ以上】

- 『0回』では、施設等の入所を「検討していない」が63.6%、「検討中」が27.3%であった。
- 『1～14回』では、施設等の入所を「検討していない」が75.0%、「検討中」が25.0%であった。
- 『15回以上』では、施設等の入所を「検討していない」、「検討中」がそれぞれ42.9%であった。

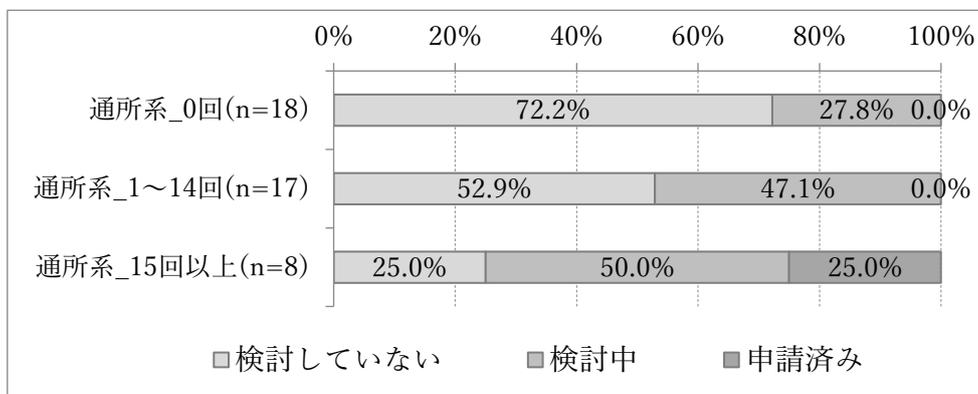
■サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）



【通所系、要介護3以上】

○利用回数が多くなるに従い、「検討中」の割合が高くなっていった。(『0回』:27.8%、
『1～14回』:47.1%、『15回以上』:50.0%)

■サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）

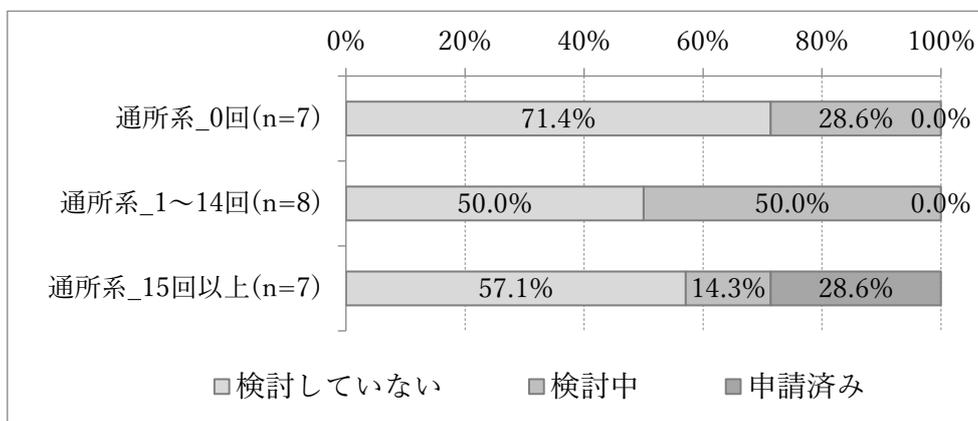


【通所系、認知症Ⅲ以上】

○「検討していない」割合は、『0回』が最も高く71.4%で、次いで『15回以上』の57.1%であった。

○「検討中」の割合は、『1～14回』が最も高く50.0%で、次いで『0回』の28.6%であった。

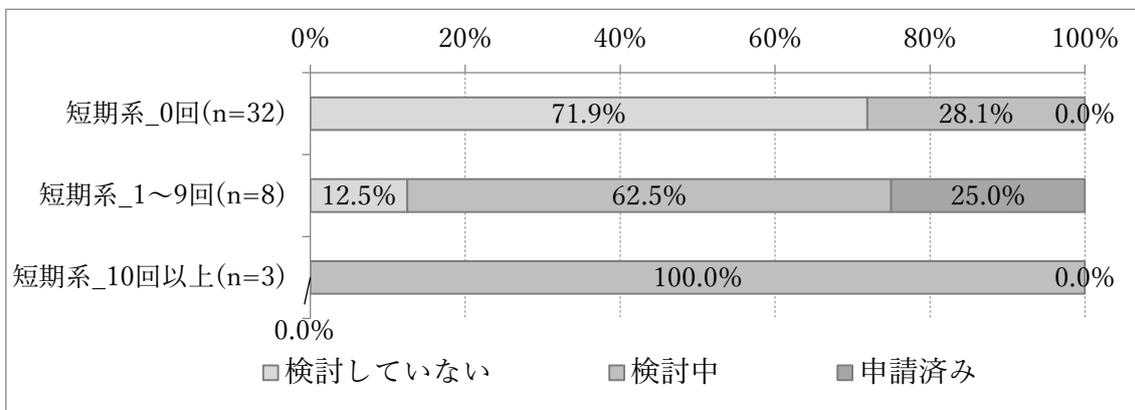
■サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）



【短期系、要介護3以上】

○利用回数が多くなるに従い、「検討中」の割合が高くなっていった。(『0回』:28.1%、
『1～9回』:62.5%、『10回以上』:100.0%)

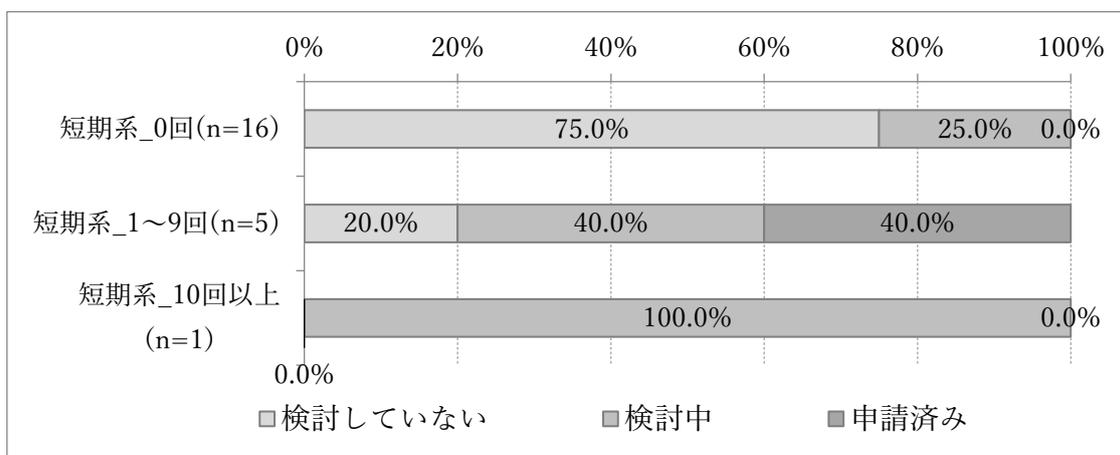
■サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）



【短期系、認知症Ⅲ以上】

○利用回数が多くなるに従い、「検討中」の割合が高くなっていった。(『0回』:25.0%、
『1～9回』:40.0%、『10回以上』:100.0%)

■サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）

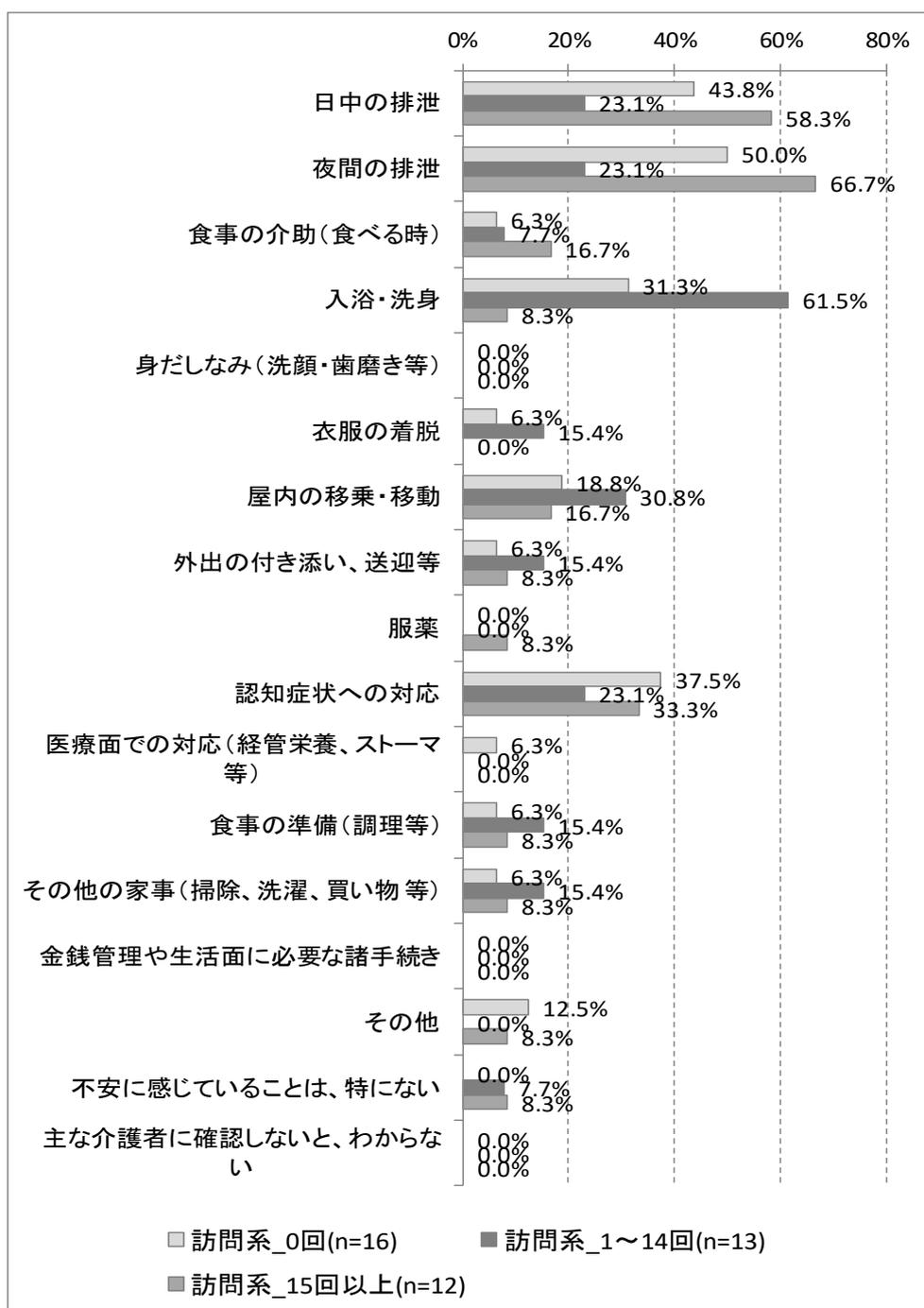


⑦ 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

【訪問系、要介護3以上】

- 『0回』では、「夜間の排泄」が50.0%で、「日中の排泄」が43.8%、「認知症状への対応」が37.5%と続いた。
- 『1～14回』では、「入浴・洗身」が61.5%で、「屋内の移乗・移動」が30.8%と続いた。
- 『15回以上』では、「夜間の排泄」が66.7%で、「日中の排泄」が58.3%、「認知症状への対応」が33.3%と続いた。

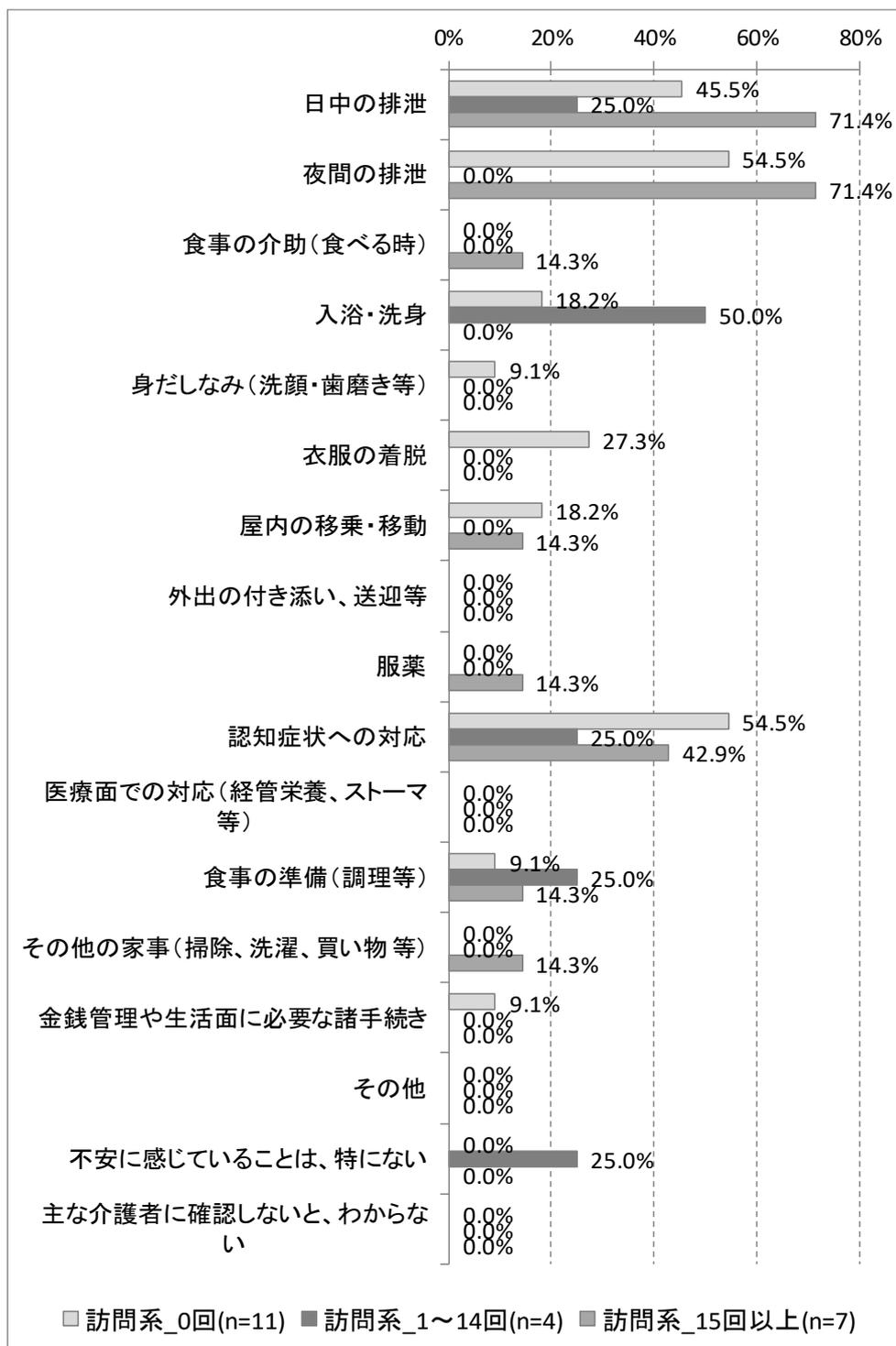
■サービス利用回数別・介護者が不安に感じる介護（訪問系、要介護3以上）



【訪問系、認知症Ⅲ以上】

- 『0回』では、「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が54.5%で、「日中の排泄」が45.5%と続いた。
- 『1～14回』では、「入浴・洗身」が50.0%で、「日中の排泄」、「認知症状への対応」、「食事の準備（調理等）」が25.0%と続いた。
- 『15回以上』では、「日中の排泄」、「夜間の排泄」が71.4%で、「認知症状への対応」が42.9%と続いた。

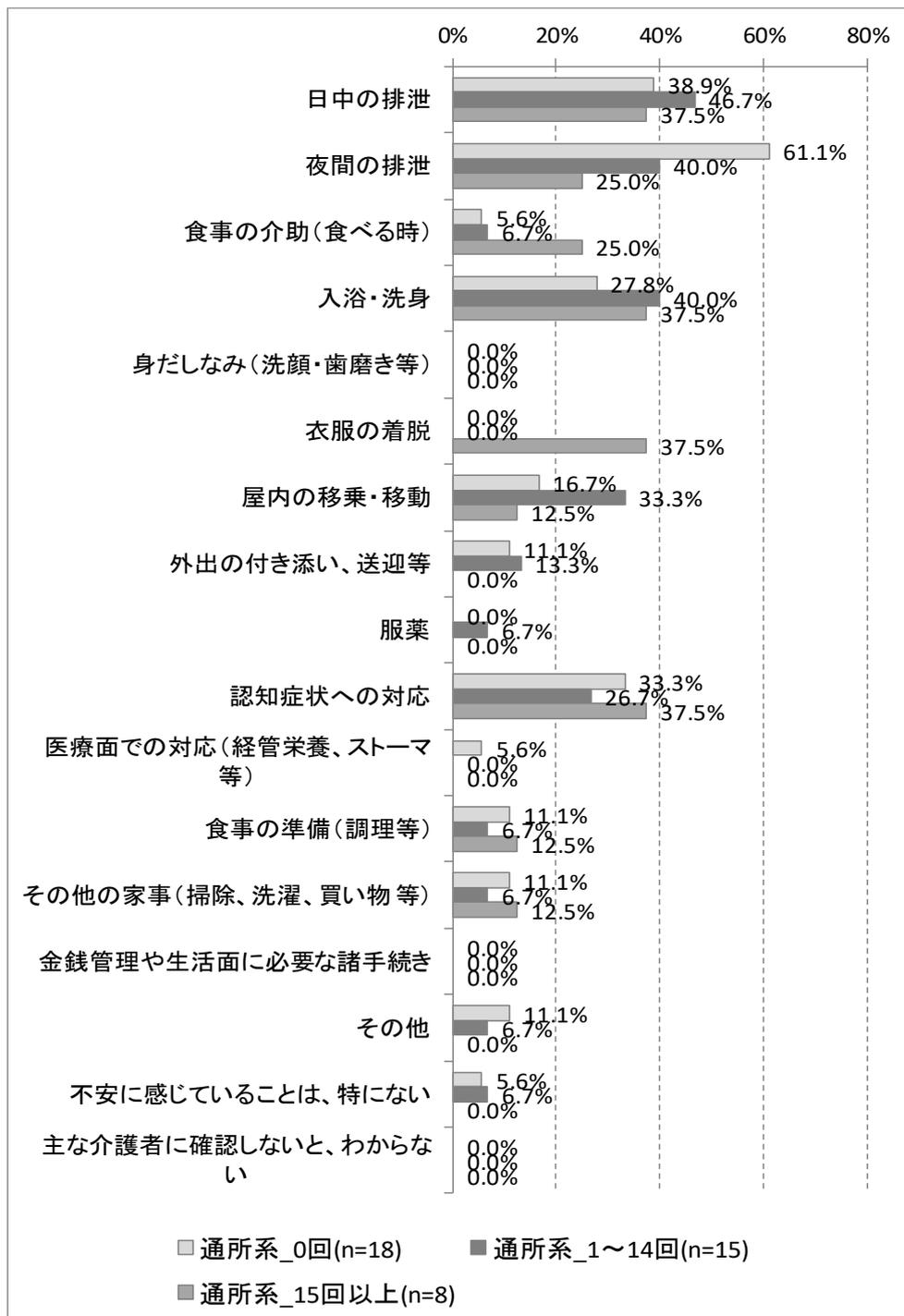
■サービス利用回数別・介護者が不安に感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）



【通所系、要介護3以上】

- 『0回』では、「夜間の排泄」が61.1%で、「日中の排泄」が38.9%、「認知症状への対応」が33.3%と続いた。
- 『1～14回』では、「日中の排泄」が46.7%で、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」が40.0%と続いた。
- 『15回以上』では、「日中の排泄」、「入浴・洗身」、「衣服の着脱」、「認知症状への対応」が37.5%であった。

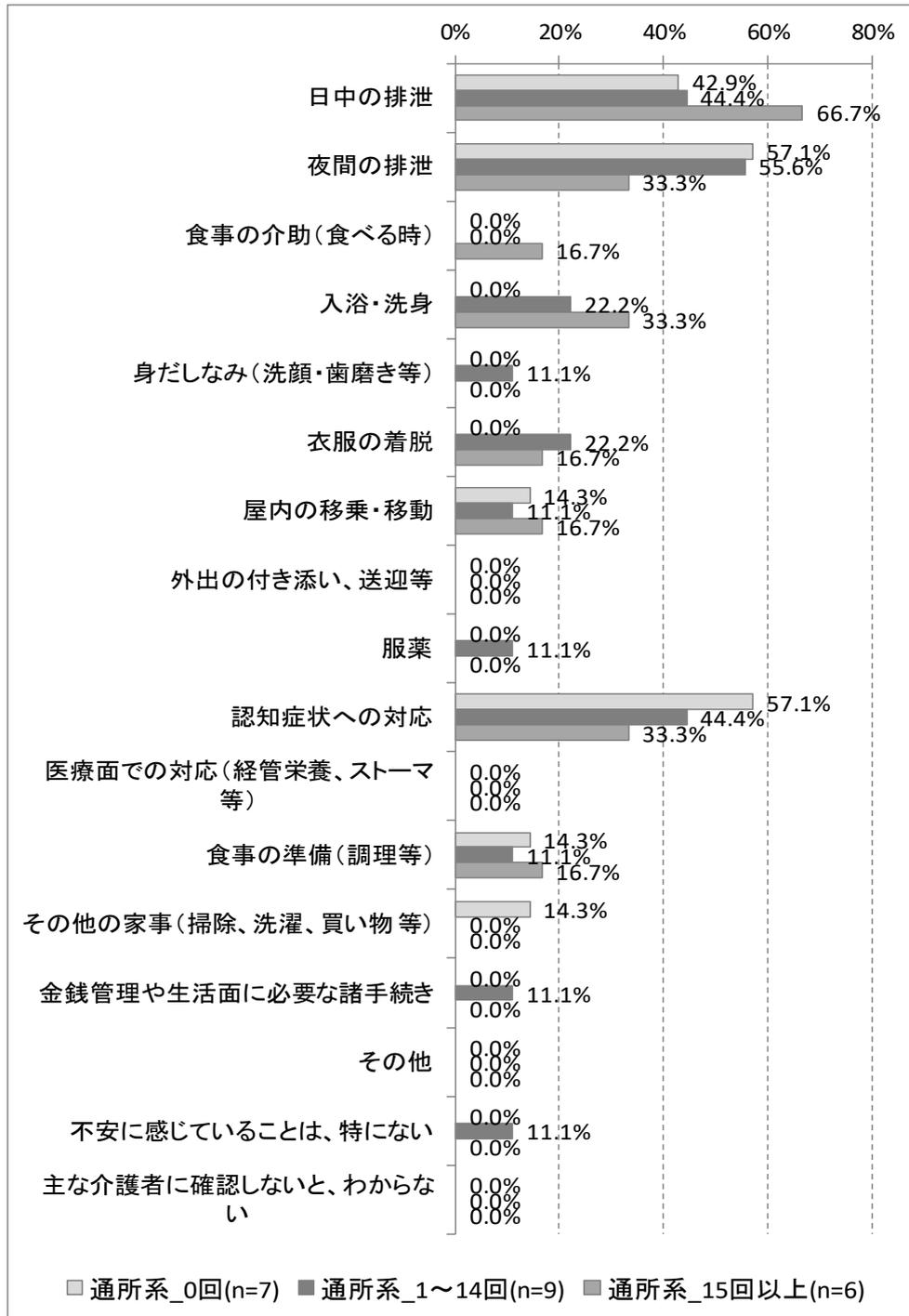
■サービス利用回数別・介護者が不安に感じる介護（通所系、要介護3以上）



【通所系、認知症Ⅲ以上】

- 『0回』では、「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が57.1%、「日中の排泄」が42.9%と続いた。
- 『1～14回』では、「夜間の排泄」が55.6%、「日中の排泄」、「認知症状への対応」が44.4%と続いた。
- 『15回以上』では、「日中の排泄」が66.7%、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「認知症状への対応」が33.3%と続いた。

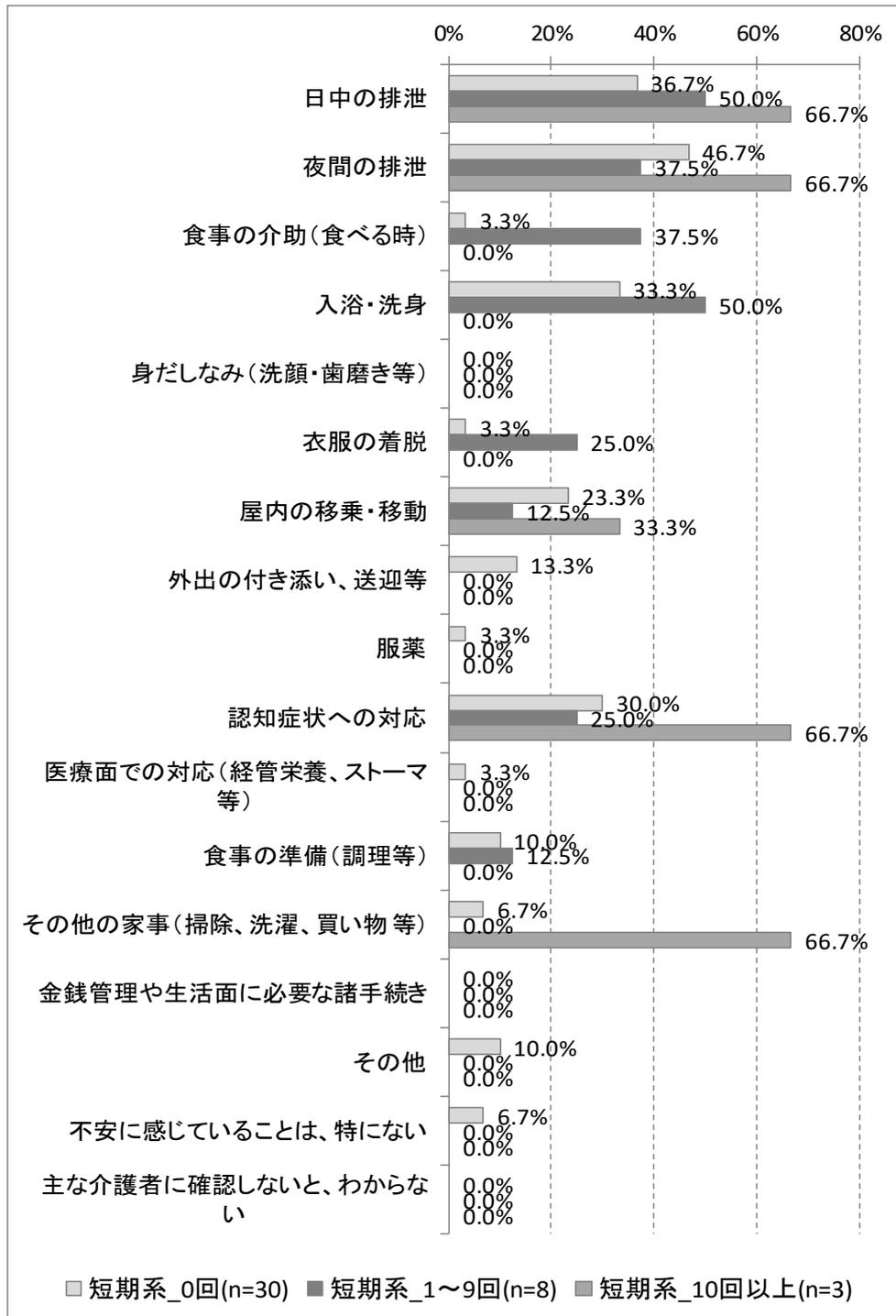
■サービス利用回数別・介護者が不安に感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）



【短期系、要介護3以上】

- 『0回』では、「夜間の排泄」が46.7%、「日中の排泄」が36.7%、「入浴・洗身」が33.3%と続いた。
- 『1～9回』では、「日中の排泄」、「入浴・洗身」が50.0%、「夜間の排泄」、「食事の介助（食べる時）」が37.5%と続いた。
- 『10回以上』では、「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「認知症状への対応」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が66.7%と続いた。

■サービス利用回数別・介護者が不安に感じる介護（短期系、要介護3以上）

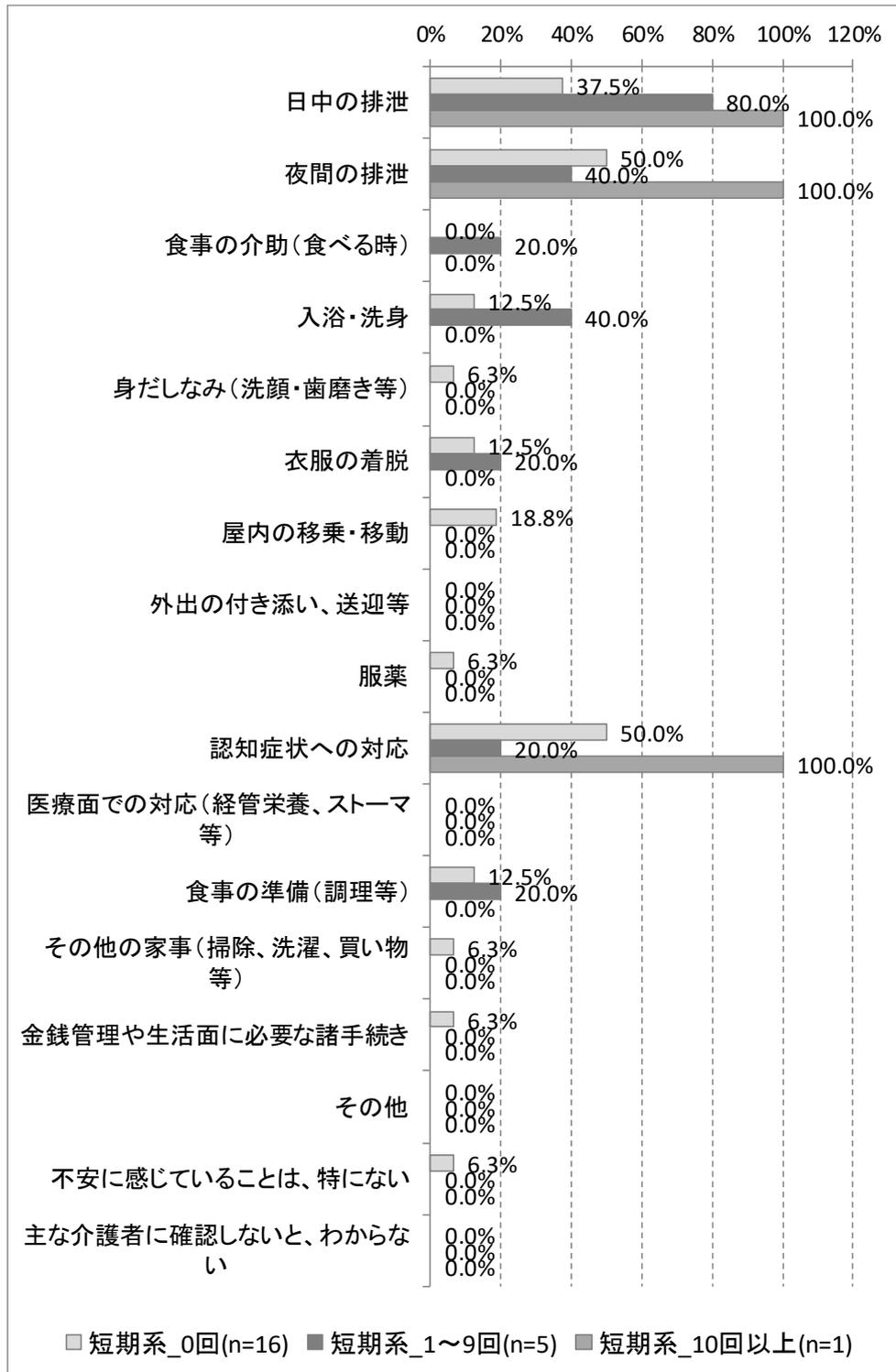


【短期系、認知症Ⅲ以上】

○『0回』では、「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が50.0%、「日中の排泄」が37.5%と続いた。

○1回以上の利用では、「日中の排泄」、「夜間の排泄」が高い傾向にあった。

■サービス利用回数別・介護者が不安に感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）

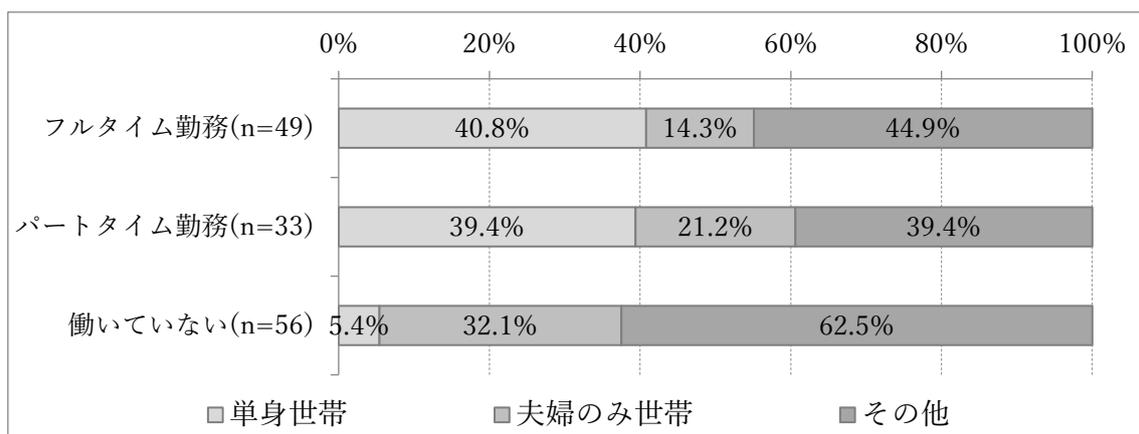


(2) 主な介護者の就労状況と就労継続見込み

① 基本集計

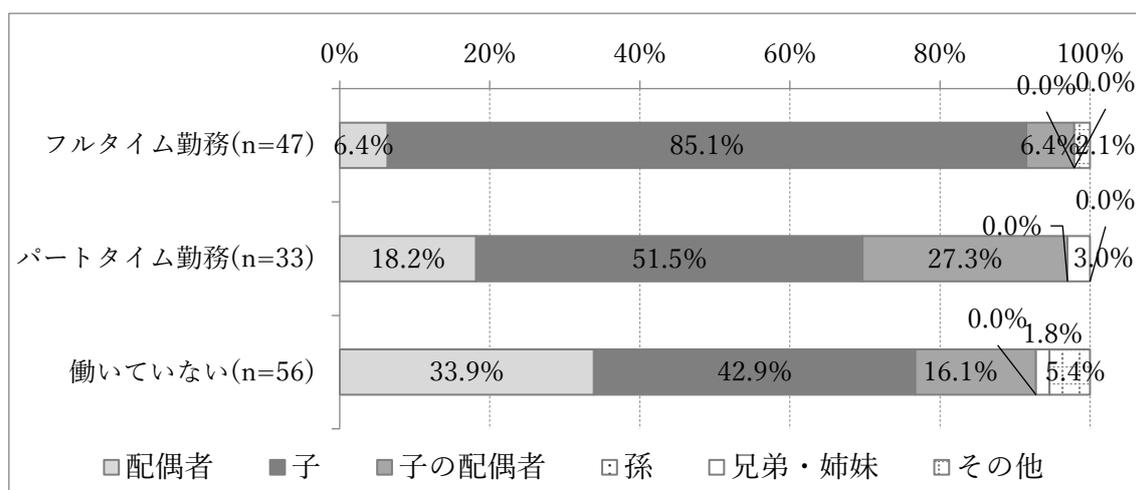
- 『フルタイム勤務』では「その他」が44.9%と最も高く、次いで「単身世帯」の40.8%と続いた。
- 『働いていない』では「その他」が62.5%と最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」が32.1%と続いた。

■就労状況別・世帯類型



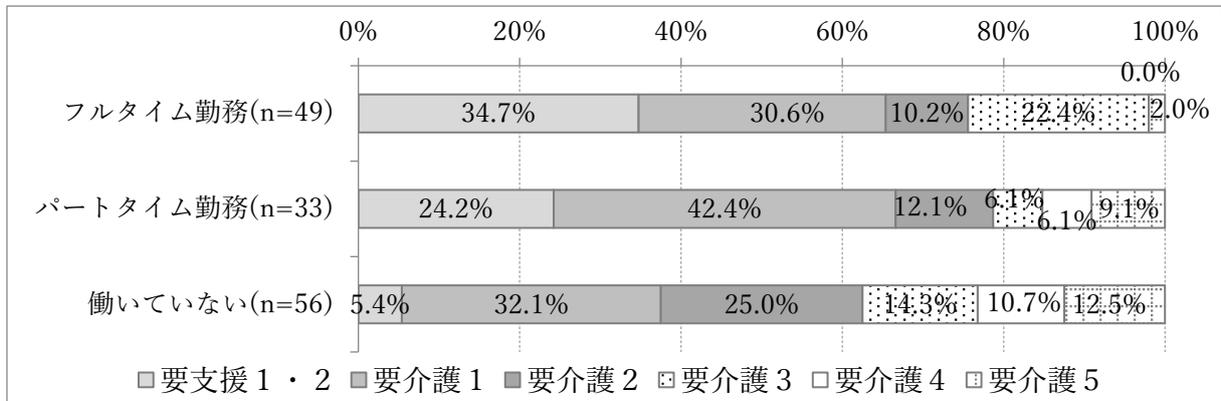
- 介護者の本人との関係について、いずれの勤務形態においても「子」が最も高く、割合は『フルタイム勤務』の85.1%が最も高くなっている。

■就労状況別・主な介護者の本人との関係



○『フルタイム勤務』では「要支援1・2」が34.7%と最も高く、『パートタイム勤務』『働いていない』では「要介護1」が最も高く、それぞれ42.4%、32.1%であった。

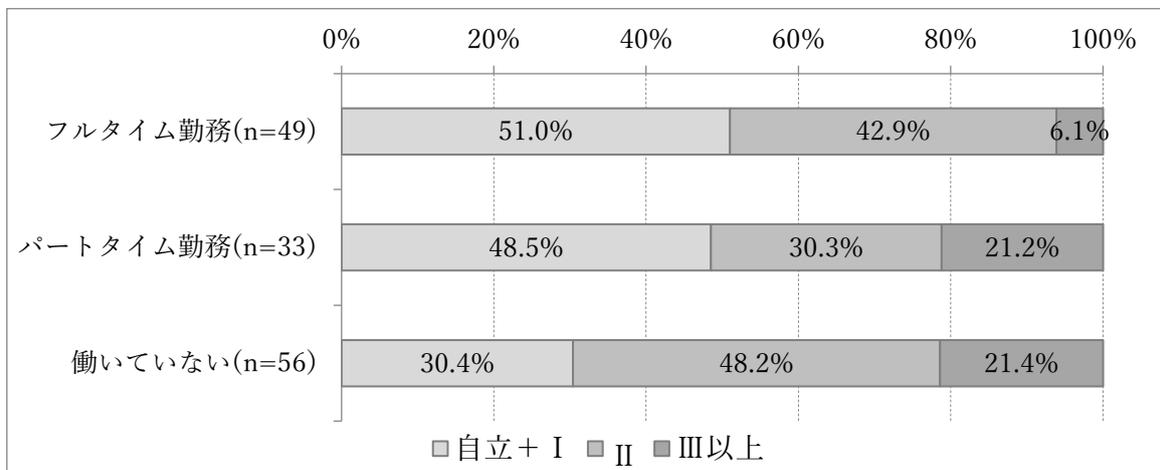
■就労状況別・要介護度



○『フルタイム勤務』および『パートタイム勤務』では認知症自立度「自立+I」が最も高く、それぞれ51.0%、48.5%であった。

○『働いていない』では認知症自立度「II」が最も高く48.2%であった。

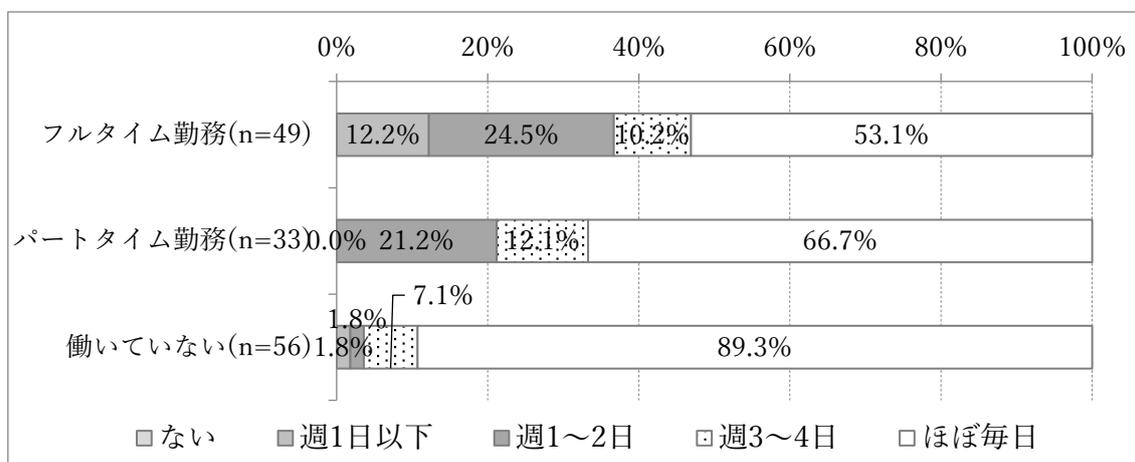
図表 2-6 就労状況別・認知症自立度



② 就労状況別の就労継続見込み

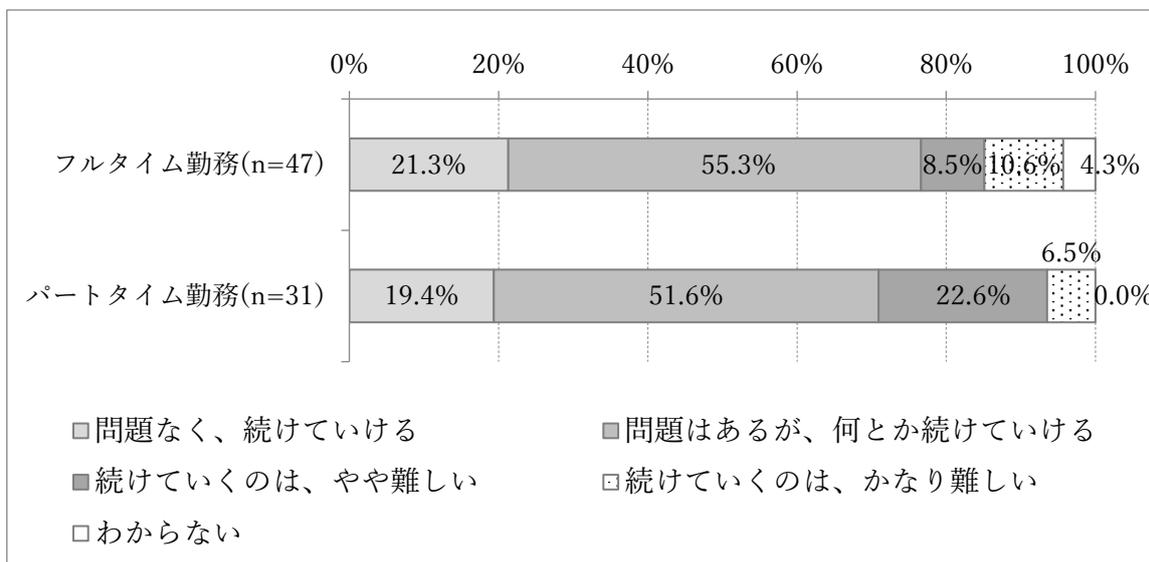
○「ほぼ毎日」介護している割合は、『働いていない』で89.3%と最も高く、『パートタイム勤務』の66.7%、『フルタイム勤務』の53.1%と続いた。

■ 就労状況別・家族等による介護の頻度



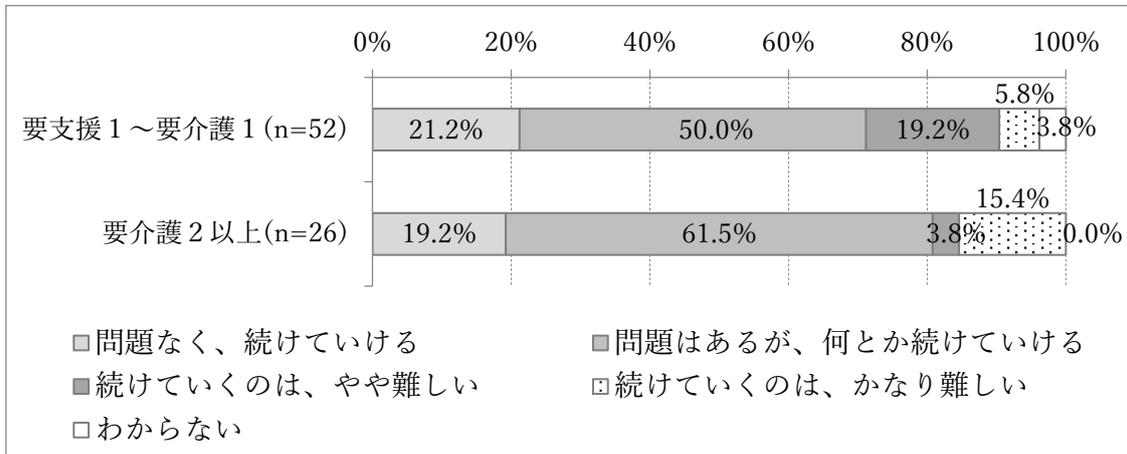
○就労継続見込みについては、『フルタイム勤務』、『パートタイム勤務』とも「問題はあるが、何とか続けていける」が最も高く、それぞれ55.3%、51.6%であった。

■ 就労状況別・就労継続見込み



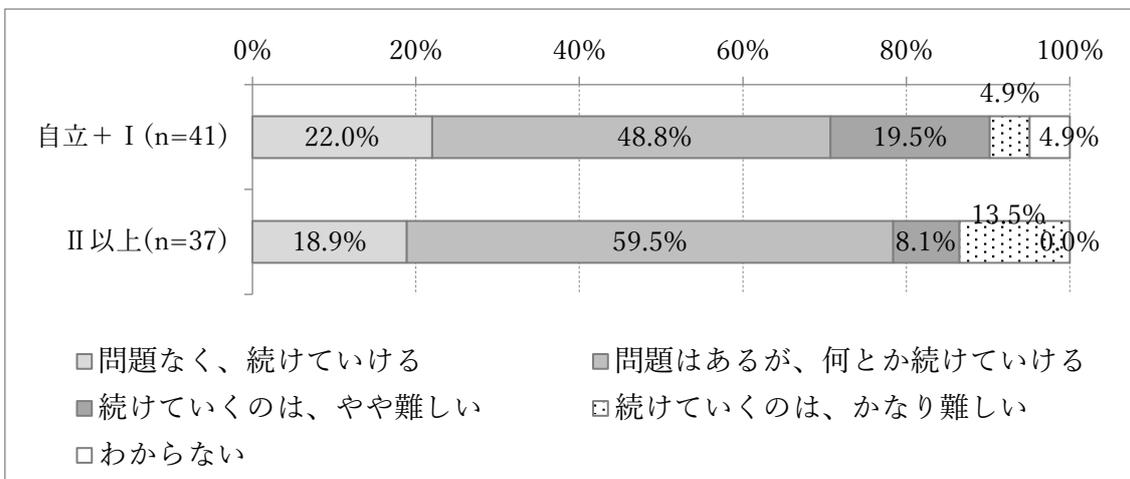
○要介護度別の就労継続見込みについては、『要支援1～要介護1』、『要介護2以上』ともに「問題はあるが、何とか続けていける」が最も高く、それぞれ50.0%、61.5%であった。

■要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



○認知症自立度別の就労継続見込みについては、『自立+I』『II以上』ともに「問題はあるが、何とか続けていける」が最も高く、それぞれ48.8%、59.5%であった。

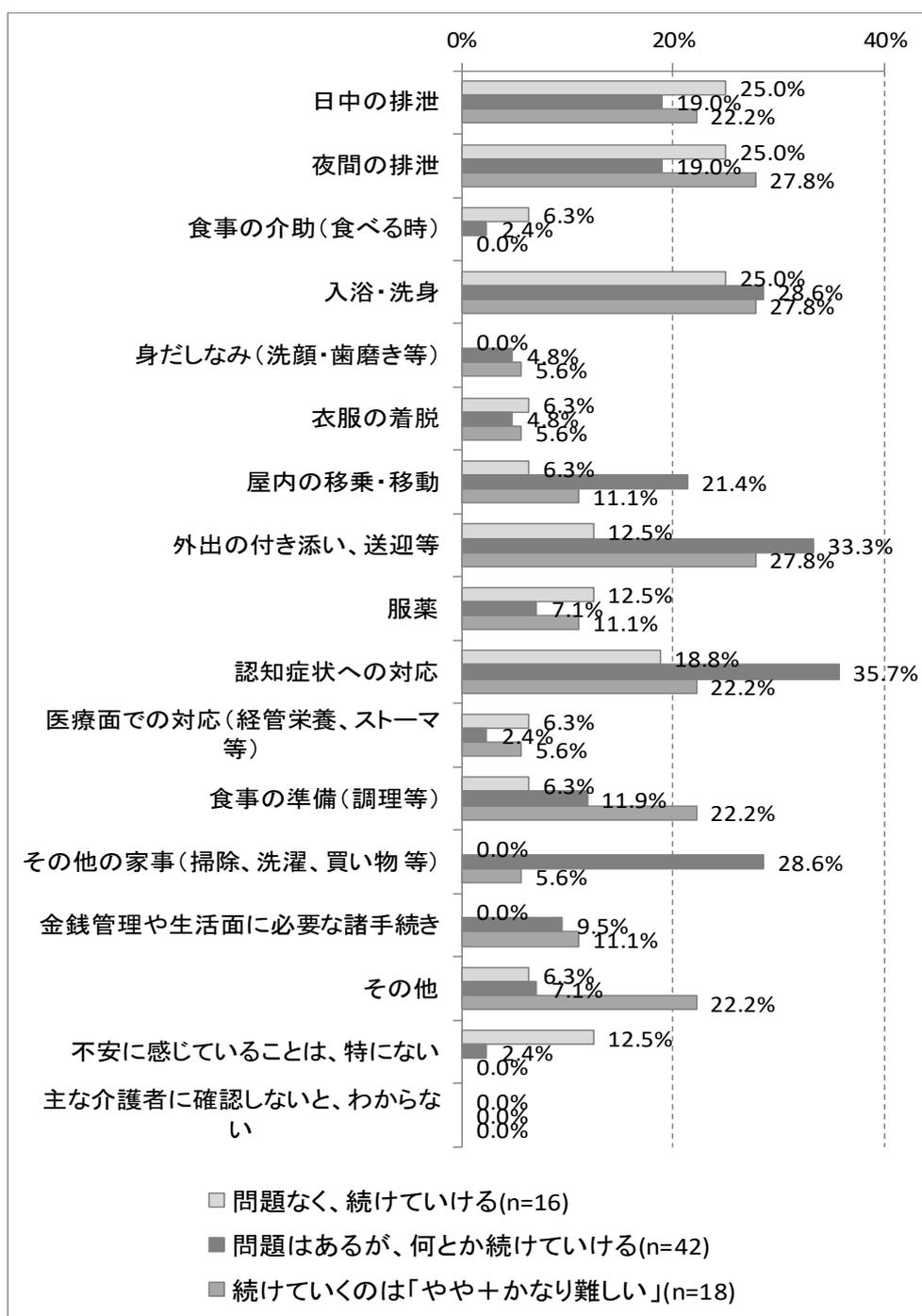
■認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



③ 「就労継続見込み」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

- 『問題なく、続けていける』では、「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」が25.0%で最も高かった。
- 『問題はあるが、何とか続けていける』では、「認知症状への対応」が35.7%で最も高かった。
- 『続けていくのは「やや+かなり難しい』』では、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」が27.8%で最も高かった。

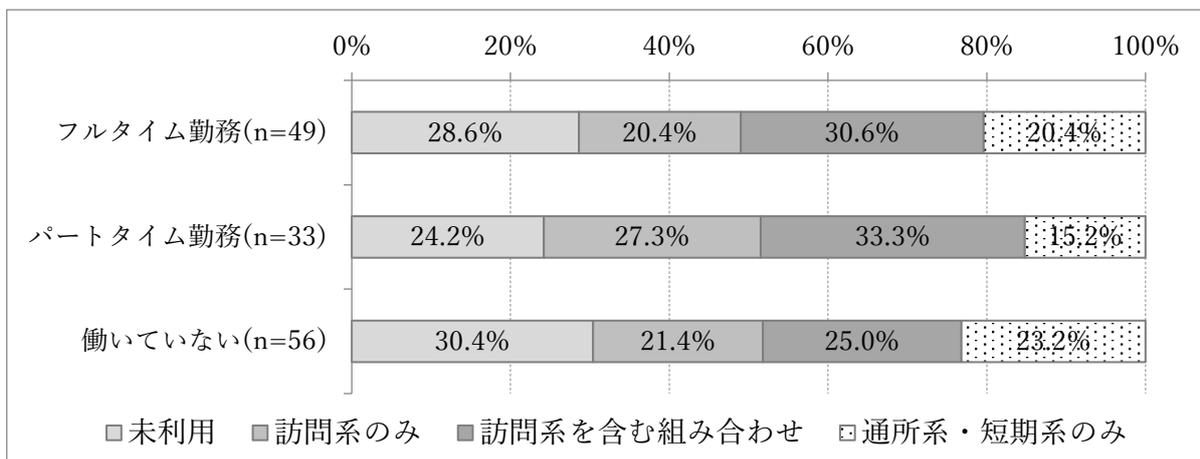
■就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



④ 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

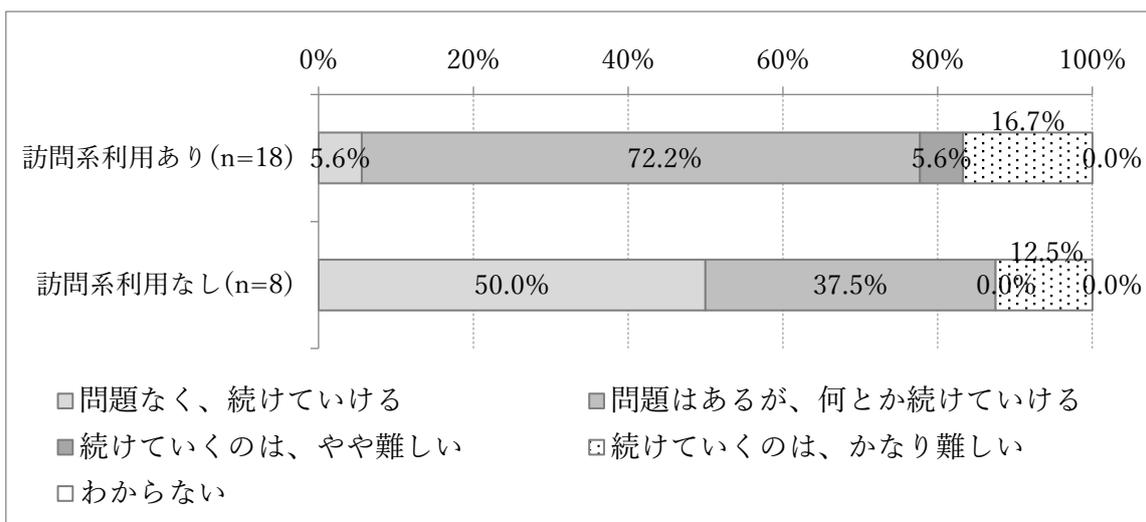
- 『フルタイム勤務』『パートタイム勤務』については、「訪問系を含む組み合わせ」が最も高く、それぞれ 30.6%、33.3%であった。
- 『働いていない』では、「未利用」が最も高く、30.4%であった。

■就労状況別・サービス利用の組み合わせ



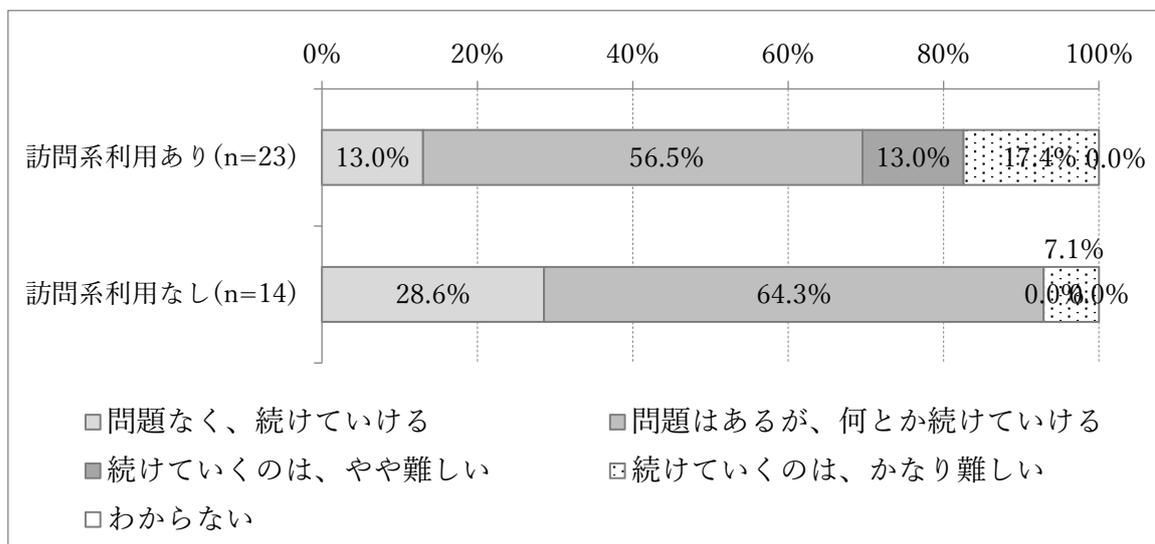
- 要介護2以上の就労継続見込みは『訪問系利用あり』で「問題はあるが、何とか続けていける」が最も高く、72.2%であった。
- 『訪問系利用なし』では「問題なく、続けていける」が最も高く、50.0%であった。

■サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）



○認知症自立度Ⅱ以上の就労継続見込みは『訪問系利用あり』『訪問系利用なし』とも「問題はあるが、何とか続けていける」が最も高く、それぞれ56.5%、64.3%であった。

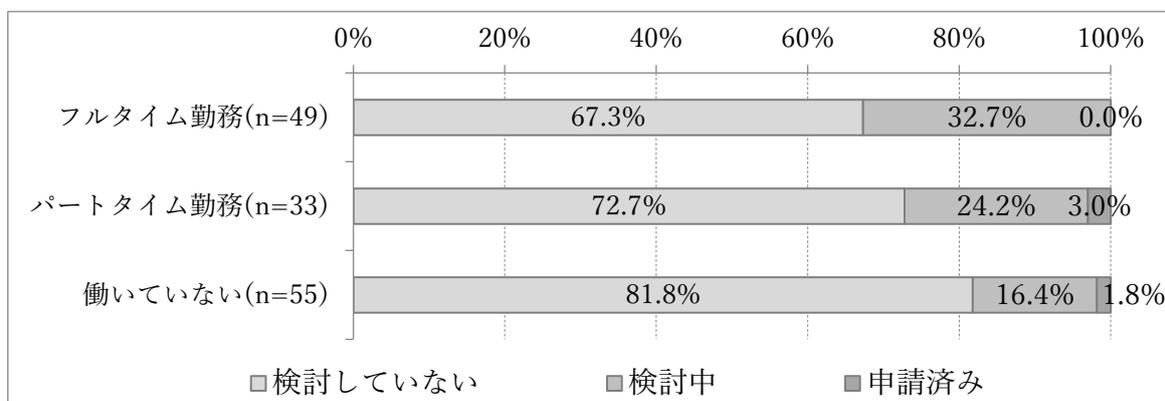
■サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



⑤ 就労状況別の施設等検討の状況

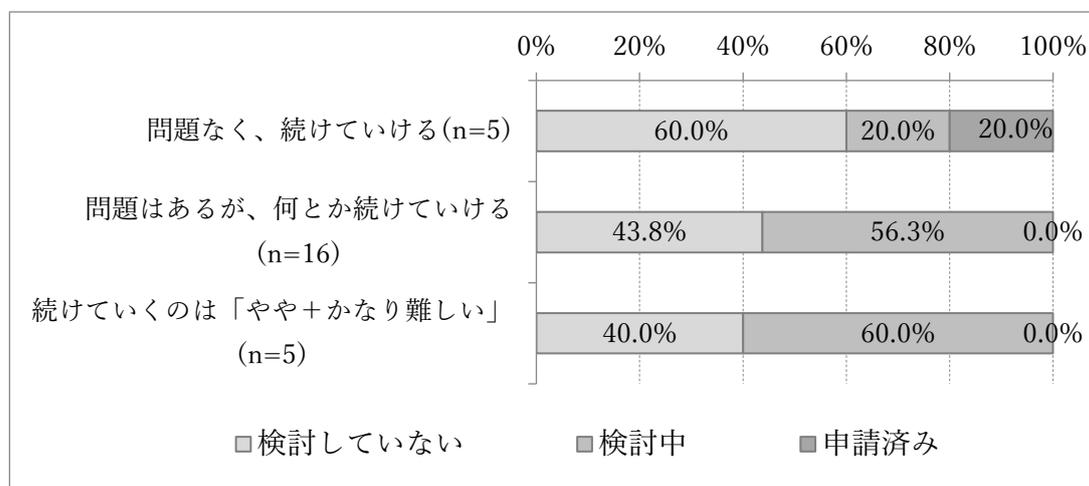
○『フルタイム勤務』『パートタイム勤務』『働いていない』とも施設入所を「検討していない」が最も高く、それぞれ67.3%、72.7%、81.8%であった。

■ 就労状況別・施設等検討の状況



○就労継続見込みについて『問題なく、続けていける』では、施設等の入所を「検討していない」が最も高く60.0%であったが、『続けていくのは「やや+かなり難しい』』では「検討中」が60.0%と最も高かった。

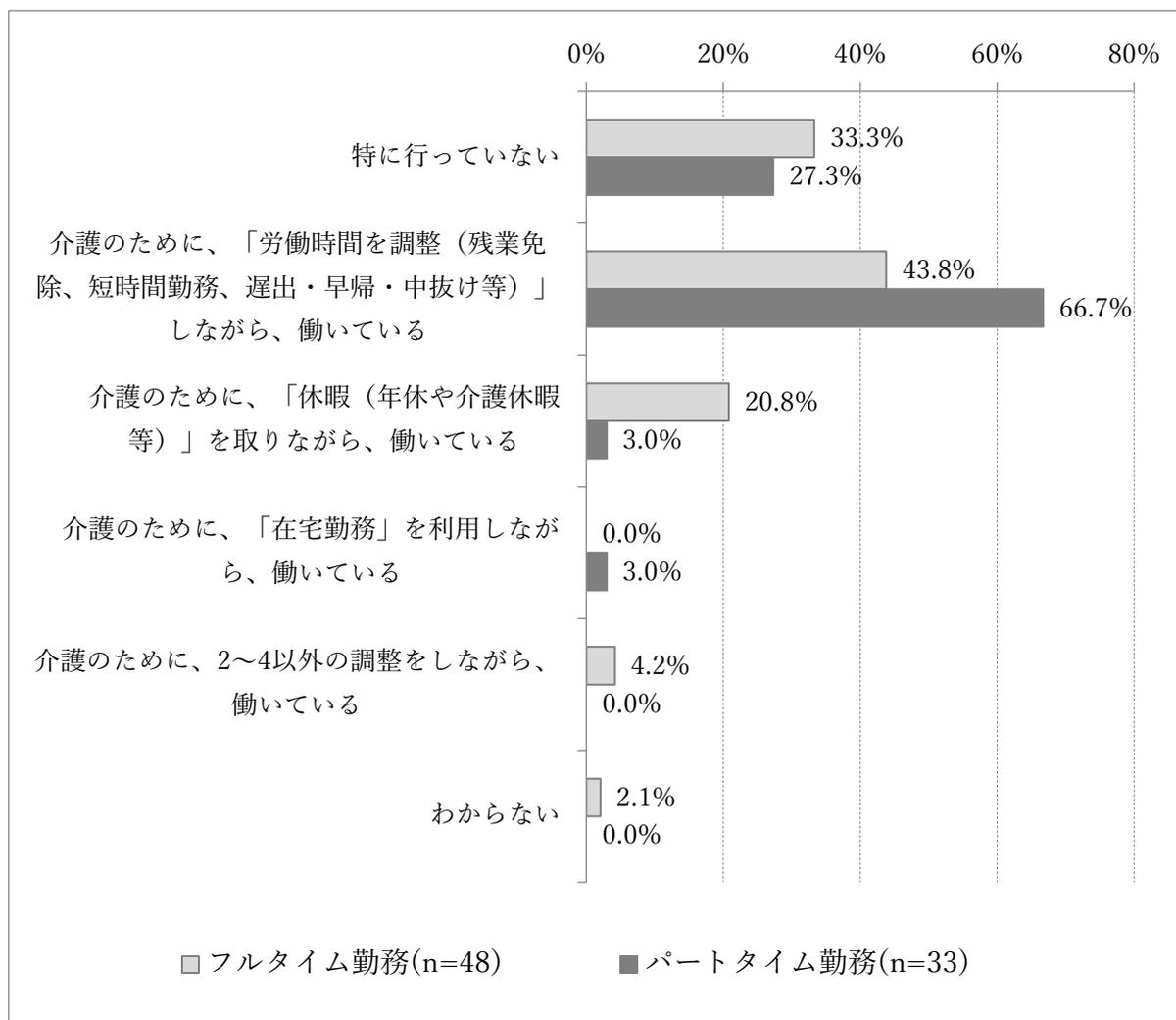
■ 就労継続見込み別・施設等検討の状況（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）



⑥ 就労状況別の介護のための働き方の調整

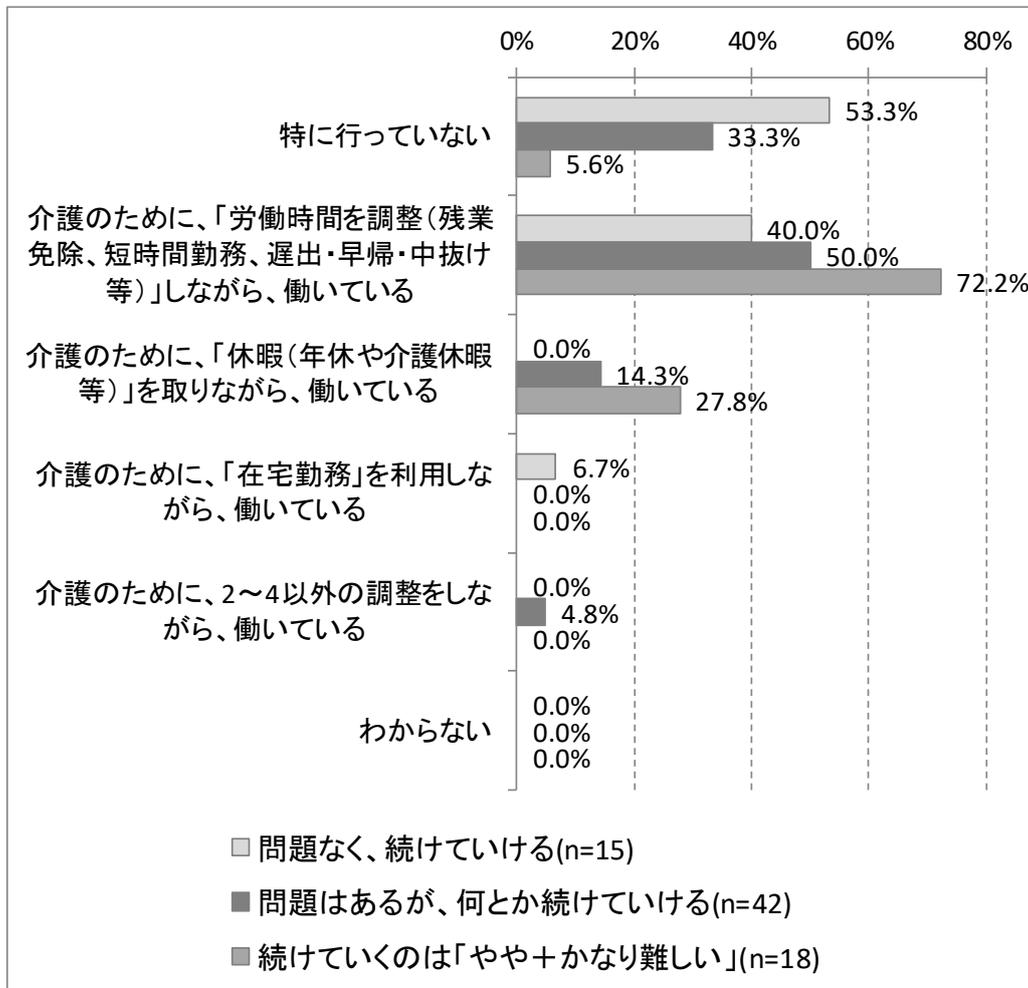
○『フルタイム勤務』『パートタイム勤務』とも「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」が最も高く、それぞれ 43.8%、66.7%であった。

■就労状況別・介護のための働き方の調整



○就労継続見込みについて『問題なく、続けていける』では「特に行っていない」が53.3%と最も高く、『続けていくのは「やや+かなり難しい」』では、「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」が72.2%と最も高かった。

■就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務+パートタイム勤務）

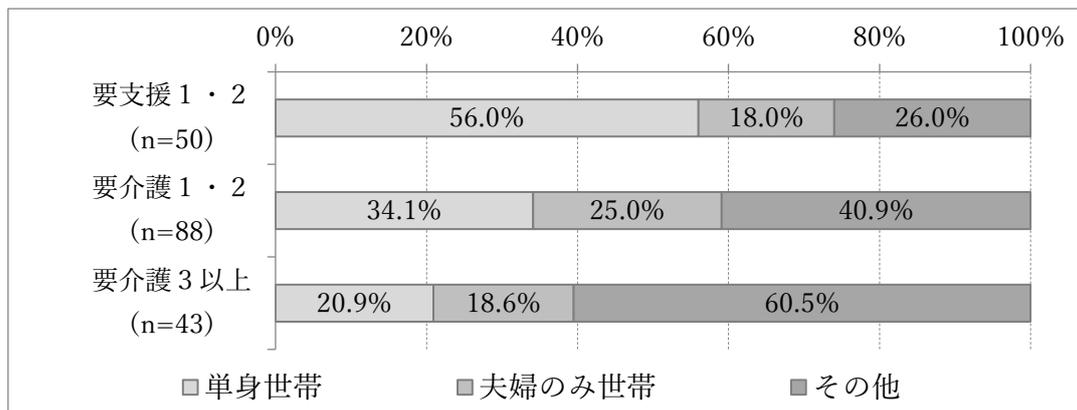


(3) 世帯類型別のサービス利用や施設等の検討状況

① 基本集計

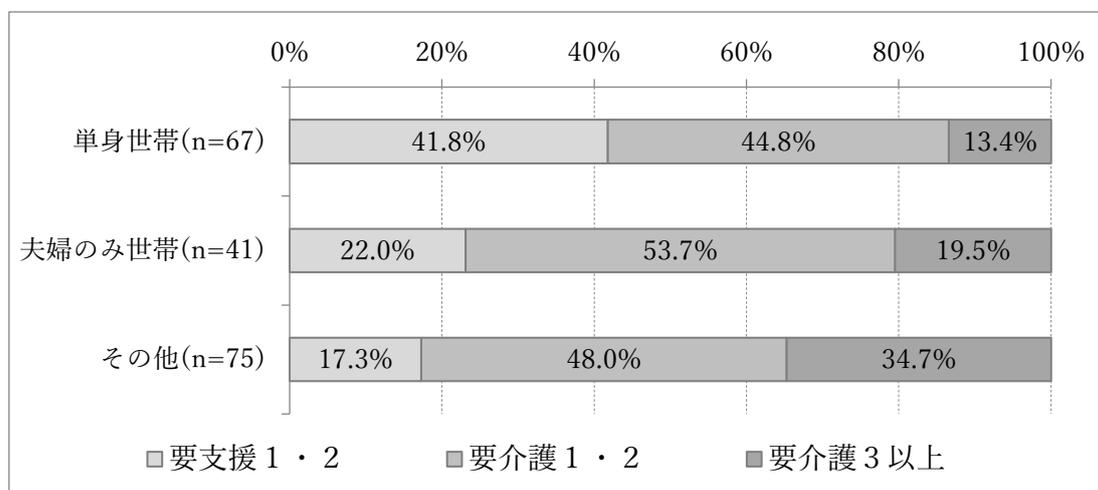
○要介護度が重度化するに伴い、「単身世帯」の割合が低くなっていた（『要支援1・2』は56.0%、『要介護1・2』は34.1%、『要介護3以上』は20.9%）。

■要介護度別・世帯類型



○『単身世帯』『夫婦のみ世帯』『その他』いずれも「要介護1・2」が最も高く、それぞれ44.8%、53.7%、48.0%であった。

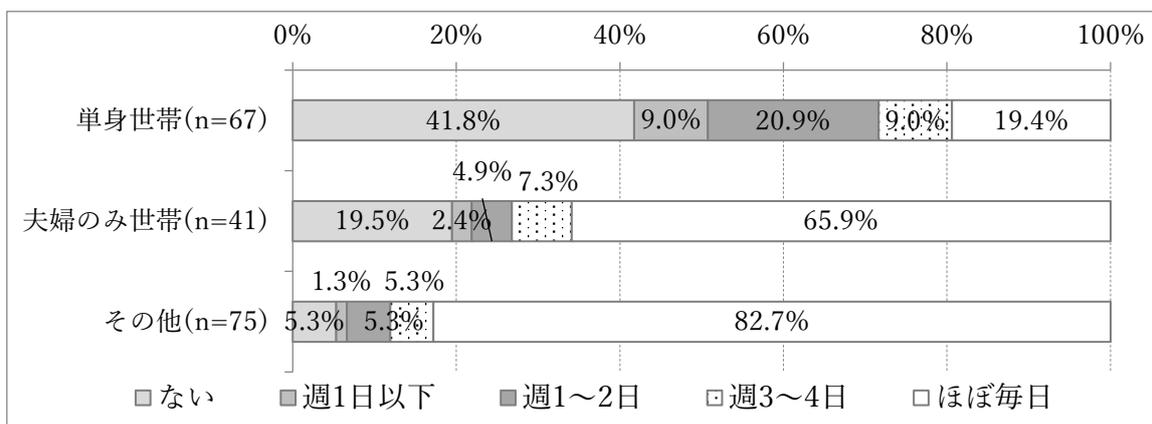
■世帯類型別・要介護度



② 「世帯類型別・要介護度別」の「家族等による介護の頻度」

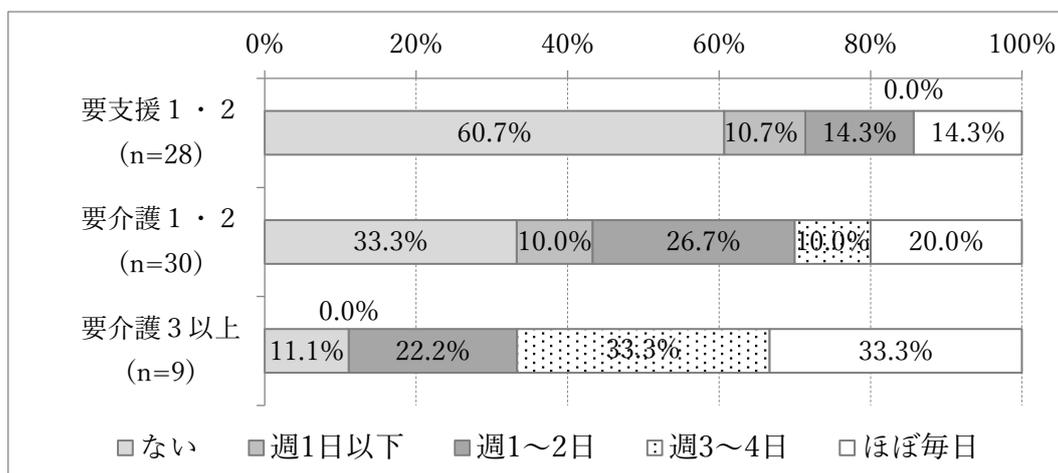
○『単身世帯』では家族による介護の頻度が「ない」が最も高く、41.8%であった。一方、『夫婦のみ世帯』、『その他』では「ほぼ毎日」が最も高く、それぞれ65.9%、82.7%であった。

■世帯類型別・家族等による介護の頻度



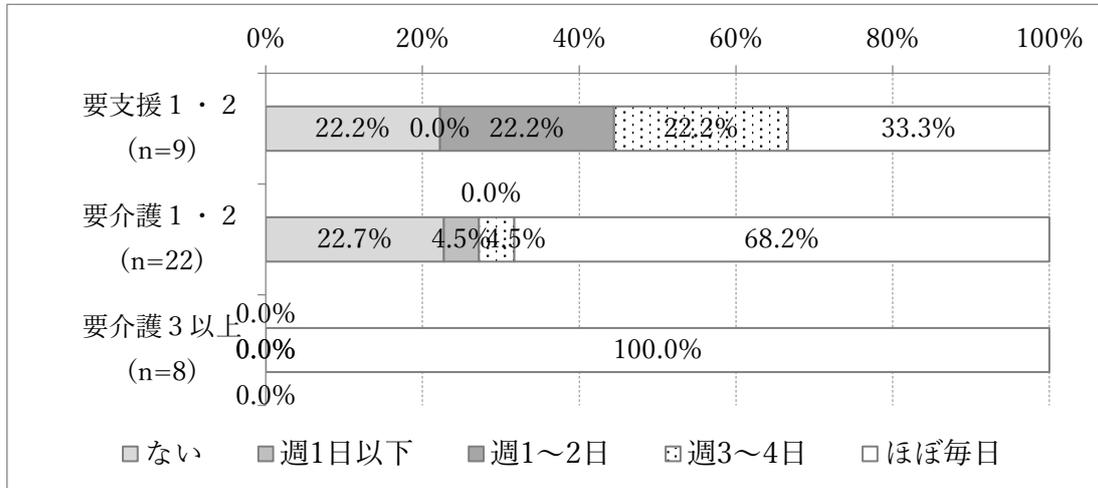
○単身世帯では介護度の重度化に伴い「ない」の割合が低くなり（『要支援1・2』は60.7%、『要介護1・2』は33.3%、『要介護3以上』は11.1%）、「ほぼ毎日」の割合が高くなっていった（『要支援1・2』は14.3%、『要介護1・2』は20.0%、『要介護3以上』は33.3%）。

■要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯）

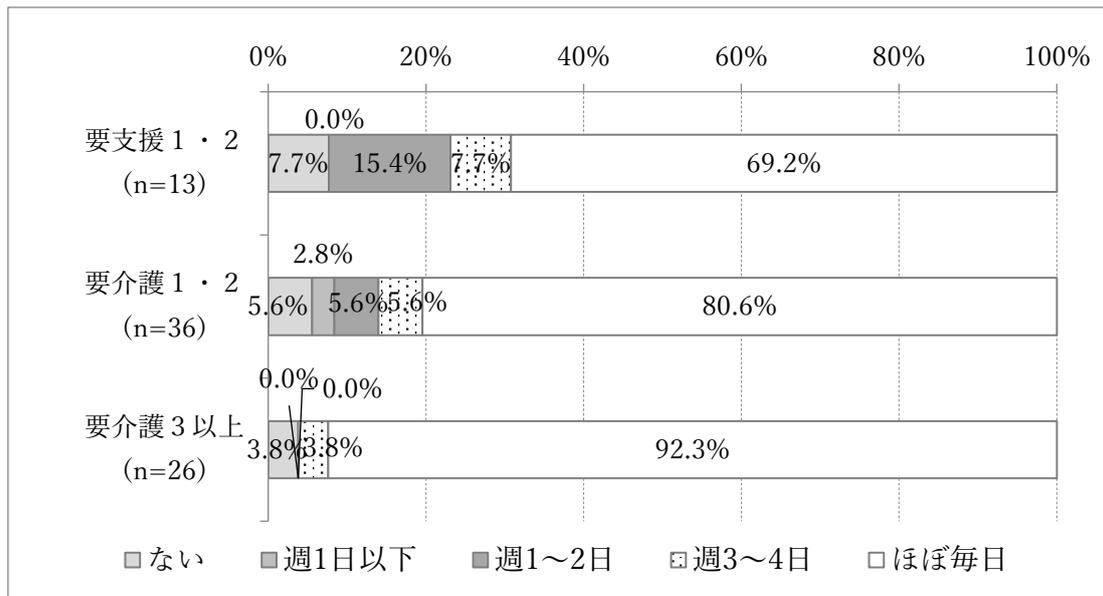


○夫婦のみ世帯およびその他世帯においては、いずれの介護度においても、「ほぼ毎日」の割合が最も高く、重度化に伴い割合は高くなっていった。

■要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）



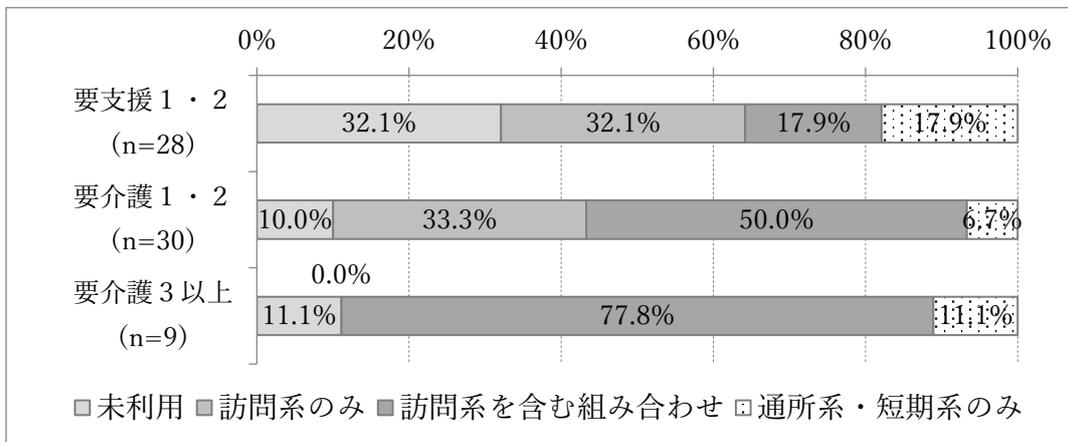
■要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）



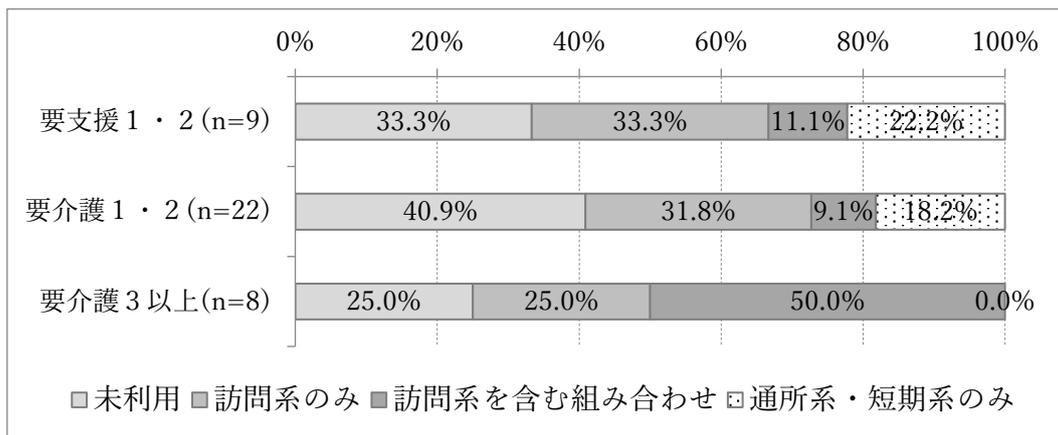
③ 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

○いずれの世帯類型においても要介護度の重度化に伴い、「訪問系を含む組み合わせ」の割合が最も高くなっていった。

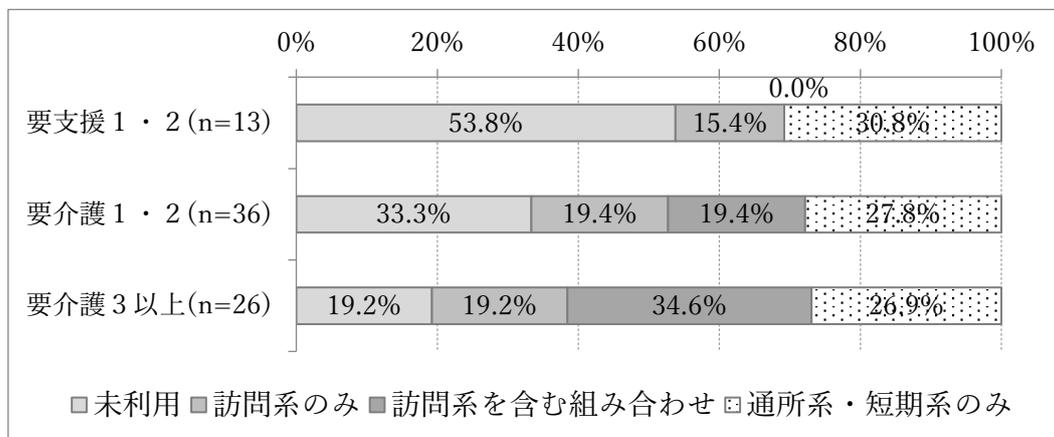
■要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



■要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）

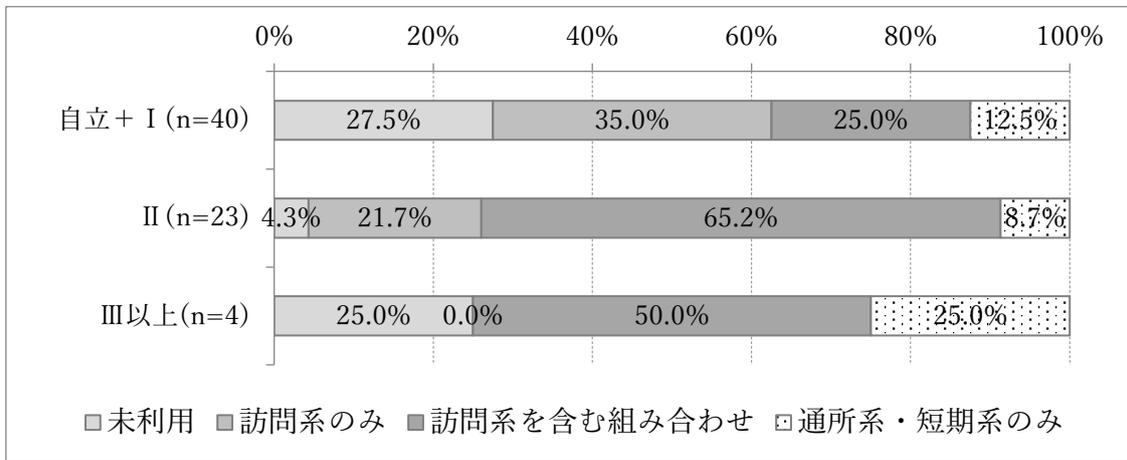


■要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）

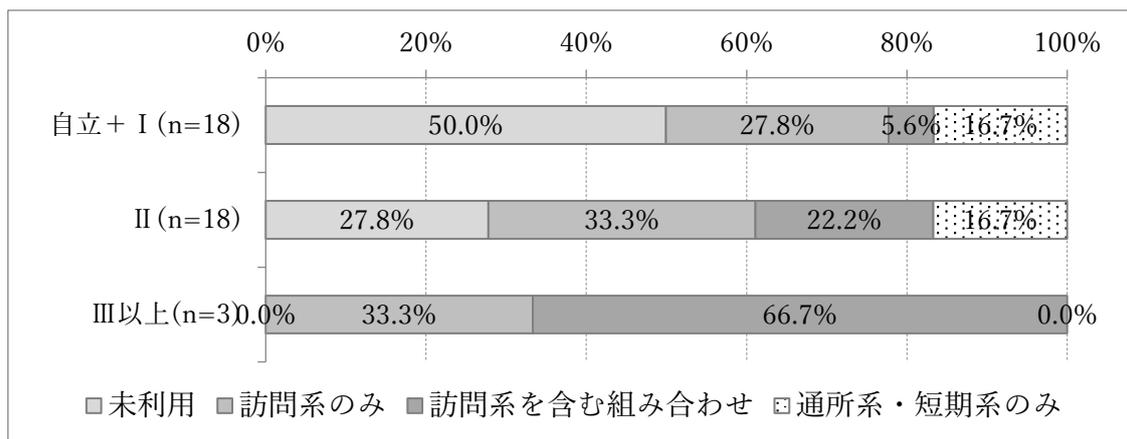


○単身世帯では認知症自立度の重度化に伴い、「訪問系のみ」の利用が少なくなっていた。一方、夫婦のみ世帯、その他世帯では、認知症自立度の重度化に伴い、「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなっていった。

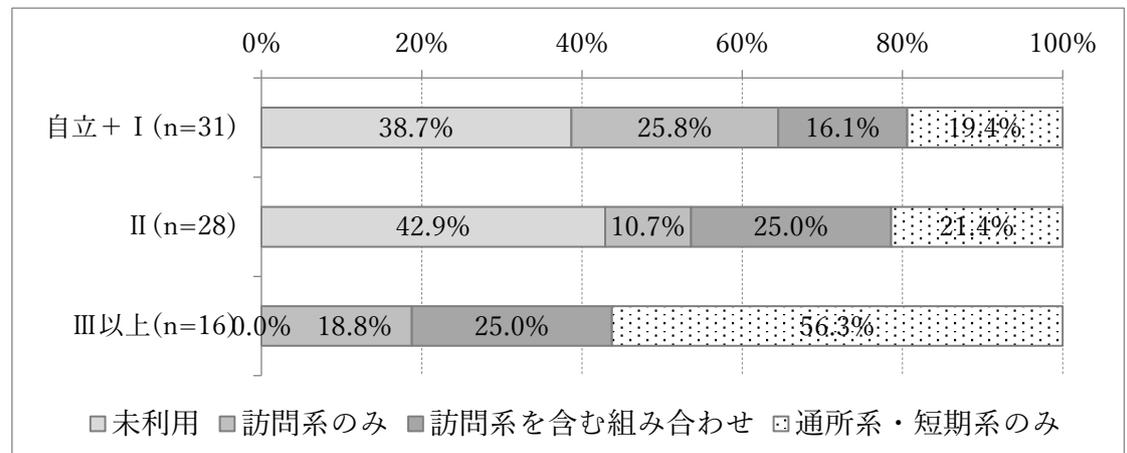
■認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



■認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



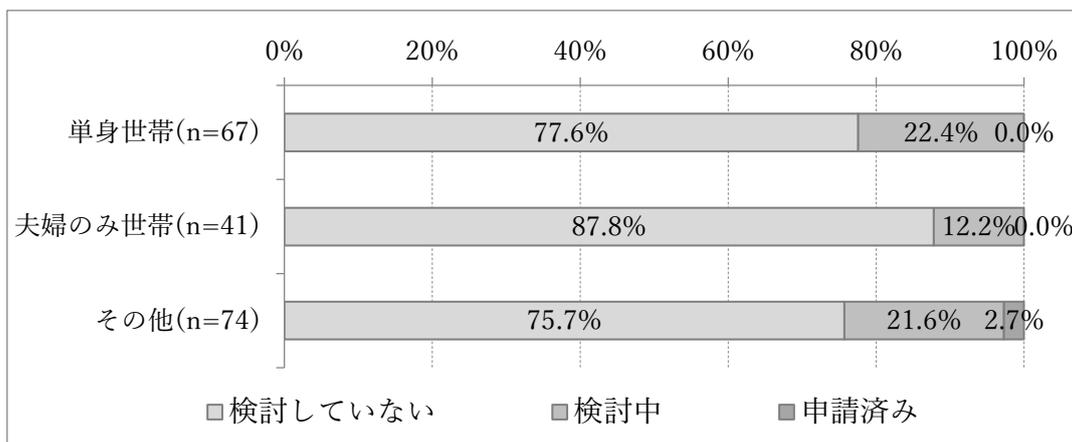
■認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



④ 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

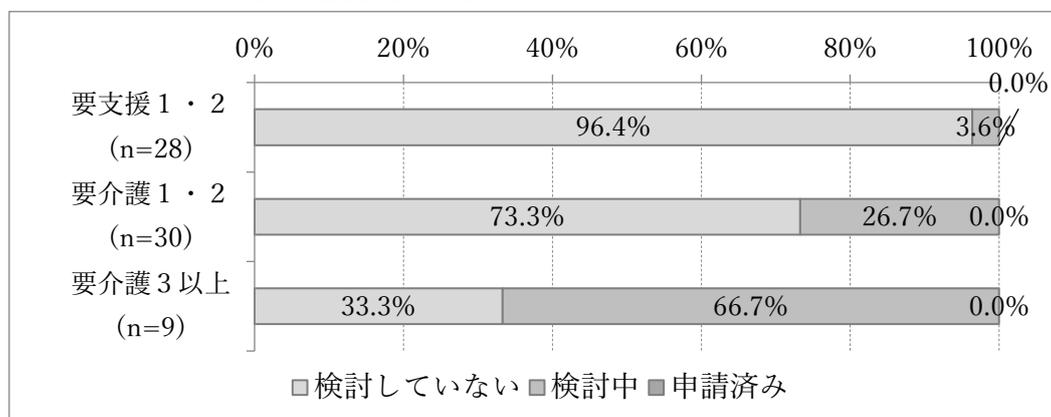
○『単身世帯』では22.4%が施設等の入所を「検討中」および「申請済み」と回答。同様に『夫婦のみ世帯』では12.2%、『その他』では24.3%が施設等の入所を「検討中」および「申請済み」と回答した。

■世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）



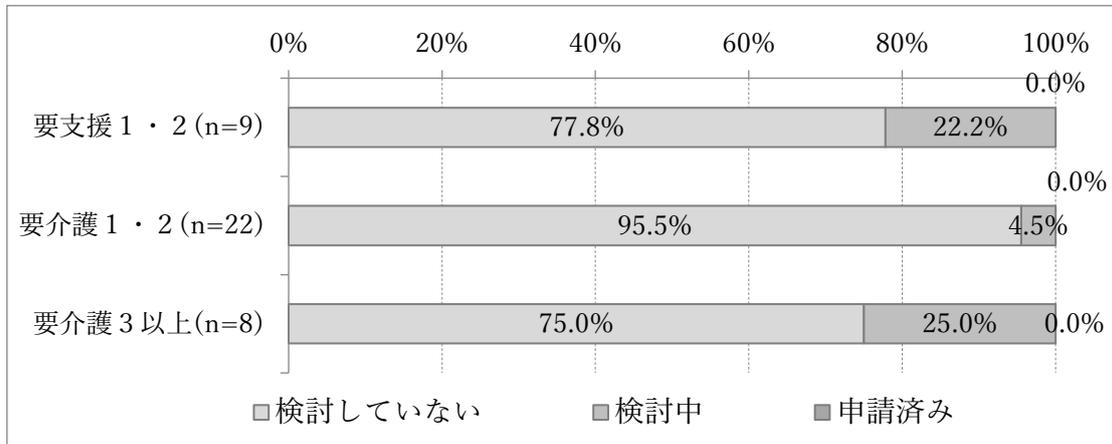
○要介護度別・施設等検討の状況について単身世帯では、施設等の入所を「検討中」および「申請済み」の割合は『要支援1・2』で3.6%、『要介護1・2』で26.7%、『要介護3以上』で66.7%であった。

■要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



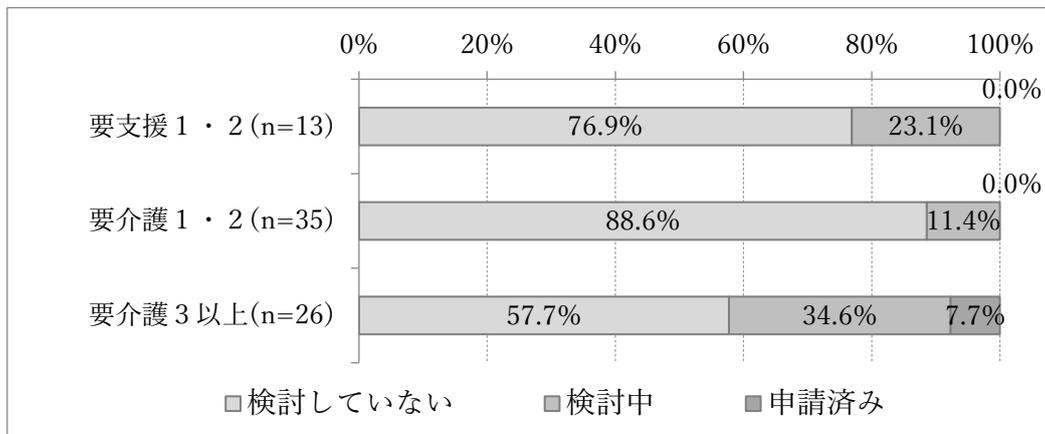
○夫婦のみ世帯では、施設等の入所を「検討中」および「申請済み」の割合は『要支援1・2』で22.2%、『要介護1・2』で4.5%、『要介護3以上』で25.0%であった。

■要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



○その他世帯では、施設等の入所を「検討中」および「申請済み」の割合は『要支援1・2』で23.1%、『要介護1・2』で11.4%、『要介護3以上』で42.3%であった。

■要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）



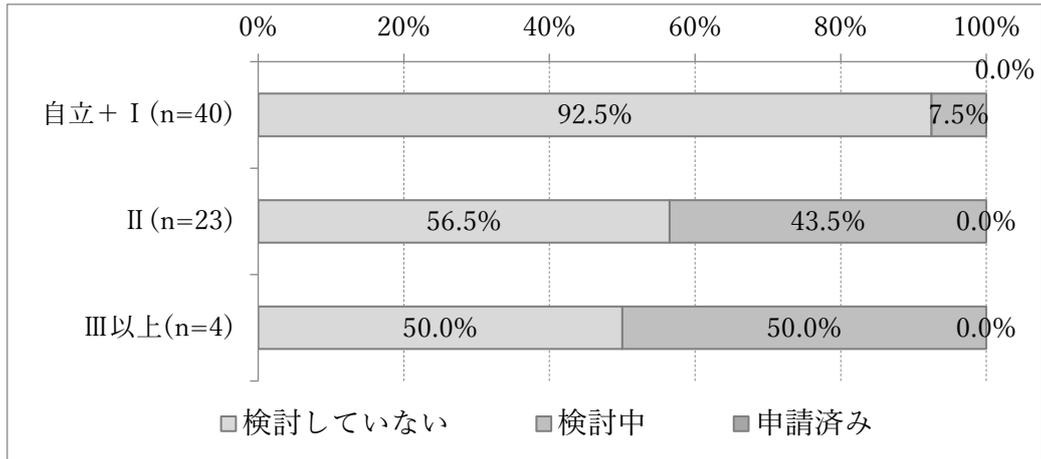
○認知症自立度別・施設等検討の状況についていずれの世帯類型でも認知症自立度の重度化に伴い、施設等の入所を「検討中」および「申請済み」の割合は高くなっていった。

○単身世帯では『自立+ I』で7.5%、『II』で43.5%、『III以上』で50.0%。

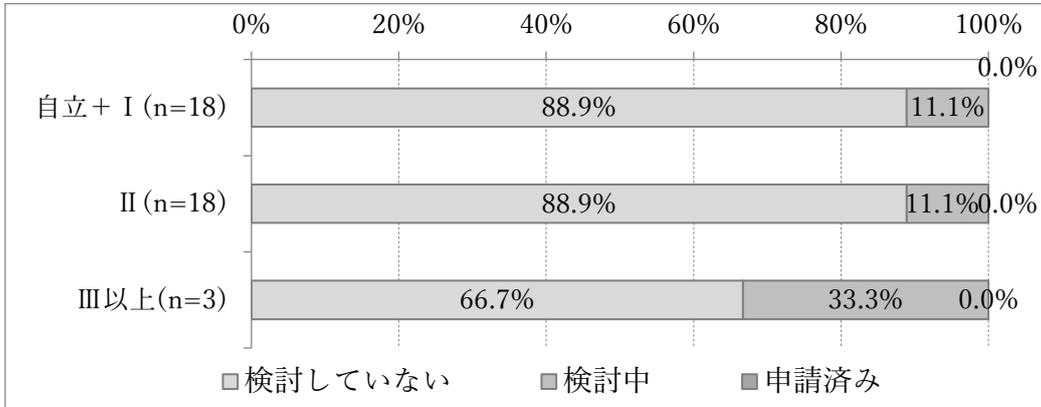
○夫婦のみ世帯では『自立+ I』、『II』で11.1%、『III以上』で33.3%。

○その他世帯では『自立+ I』で19.4%、『II』で21.4%、『III以上』で40.0%。

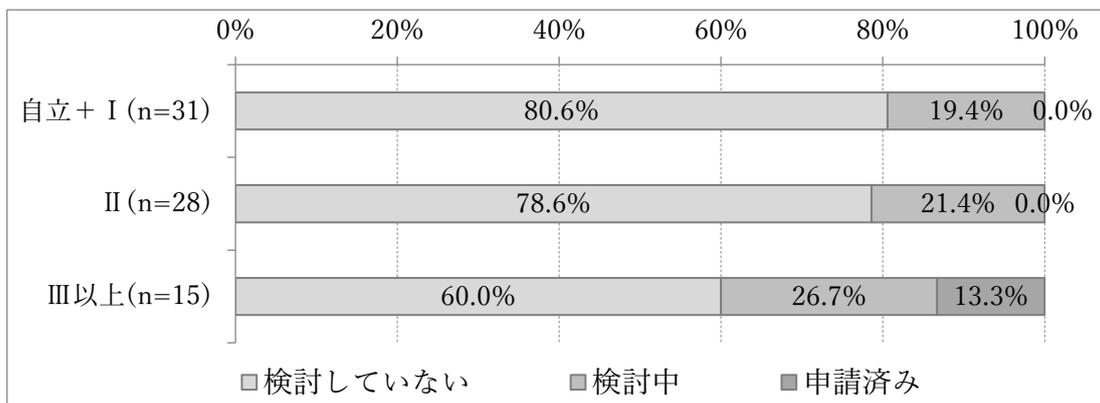
■認知症自立度別・施設等検討の状況（単身世帯）



■認知症自立度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



■認知症自立度別・施設等検討の状況（その他の世帯）



在宅介護実態調査調査票

被保険者番号〔 _____ 〕

A票

【A票の聞き取りを行った相手】(複数選択可)

1. 調査対象者本人 2. 親族(主な介護者) 3. 親族(主な介護者以外) 4. 1.のケアマネジャー 5. その他

問1 世帯類型について(1つ選択)

1. 単身 2. 夫婦のみ 3. その他

問2 親族からの介護は、週にどのくらい(同居していない親族等からの介護含む)(1つ選択)

1. ない 2. 週に()日ある

問3 主な介護者の方(1つ選択)

1. 配偶者 2. 子 3. 子の配偶者 4. 孫 5. 兄弟・姉妹 6. その他

問4 親族で、本人(認定調査対象者)の介護を理由に、過去1年間に仕事を辞めた方(複数選択可)

1. 主な介護者が仕事を辞めた(転職除く) 2. 主な介護者以外の親族が仕事を辞めた(転職除く)
3. 主な介護者が転職した 4. 主な介護者以外の親族が転職した
5. 介護のために仕事を辞めた親族はいない 6. わからない

問5 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況(1つ選択)

1. 検討していない 2. 検討している 3. すでに入所・入居申込している

※「施設等」・・・特養、老健、介護療養型医療施設、特定施設、GH、地密特定施設、地密特養。

B票

問2で「2.」を回答し、さらに「主な介護者」が調査に同席している場合は、B票へ。
「主な介護者」が同席していない場合、調査対象者本人が回答(困難な場合は、無回答)。

問1 主な介護者の現在の勤務形態(1つ選択)

1. フルタイム 2. パートタイム →問2～4へ 3. 働いていない 4. 介護者へ確認が必要 →問4へ

問2 問1で「1.」「2.」と回答した方→主な介護者の方は介護のため働き方に調整をしているか(複数選択可)

1. 特に行っていない 2. 労働時間を調整している 3. 休暇を取得している 4. 在宅勤務利用している
5. 2～4以外の調整をしている 6. 介護者へ確認が必要

問3 問1で「1.」「2.」と回答した方→主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけるか(1つを選択)

1. 続けていける 2. 何とか続けていける 3. やや難しい 4. かなり難しい 5. 介護者へ確認が必要

問4 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について

(現状で行っているか否かは問わない)(3つまで選択可)

【身体介護】

1. 日中の排泄 2. 夜間の排泄 3. 食事の介助(食べる時) 4. 入浴・洗身 5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等)
6. 衣服の着脱 7. 屋内の移乗・移動 8. 外出の付き添い、送迎等 9. 服薬 10. 認知症状への対応
11. 医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)

【生活援助】

12. 食事の準備(調理等) 13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物等) 14. 金銭管理や生活面の諸手続き

【その他】

15. その他 16. 不安に感じていることは、特にない 17. 介護者に確認しないと、わからない

